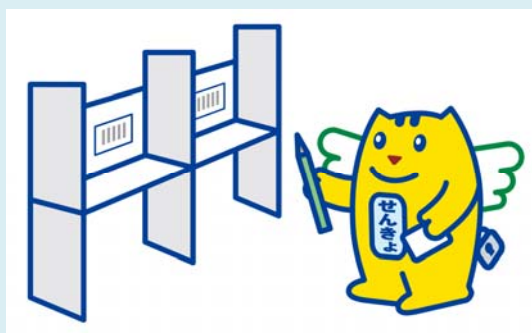


主権者教育のための成人用参加型学習教材

(平成25年度版)



参加型学習教材研究会

2014年3月

はじめに

選挙は、民主政治の基盤をなすもので、選挙が公正に行われなければその健全な発達を期することはできません。このことは、国民一人ひとりが、政治や選挙に十分な関心を持ち、候補者の人物や政見、政党の政策を判断できる目を持ち、自分の一票を進んで投票することをもってはじめて達成できるものです。

そのためには、選挙時だけでなく常日頃からあらゆる機会を通じて、政治・選挙に関する国民の意識の醸成、向上を図っていくことが重要です。公職選挙法第6条は、総務大臣及び選挙管理委員会は「選挙が公明かつ適正に行われるように常にあらゆる機会を通じて選挙人の政治常識の向上に努めなければならない」と規定し、「常時啓発」を国及び選挙管理委員会の責務としています。ただ、このような大きな任務は、総務省と選挙管理委員会だけで果たせるものではないので、他の機関や明るい選挙推進協議会などの民間団体の協力を得て進められています。

総務省は平成23年、時代に即した常時啓発のあり方を探るために「常時啓発事業のあり方等研究会」を設置し、同年12月に研究会の最終報告書が提出されました。最終報告書は、これからの常時啓発の方向として「主権者教育」、すなわち「あらゆる世代を通じて、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を作ること」を提唱し、その一環として、「参加型学習」の必要性を提案しています。

学校教育における児童・生徒を対象とした参加型学習については、多くの教材が出されていますが、大人を対象としたものは、数が限られています。この教材集は主として成人を対象に、主権者教育に資する参加型学習の教材を提供するものです。昨年度に引き続いての事業で、今年度は6教材を掲載しております。地域における常時啓発の研修会などで活用いただけたら幸いです。

なお、作成にあたりましては、鳴門教育大学の西村公孝教授、岡山大学の桑原敏典教授、熊本日日新聞NIE専門委員の越地真一郎氏、宮崎大学の吉村功太郎准教授、名古屋工業大学の上原直人准教授のご指導、ご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成26年3月

目次

教材の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	4
教材 1「新聞ヨム、社会ワカル、投票率カワル」・・・・・・	6
教材 2「話し合いを重視した身近な社会問題学習」・・・・・・	24
教材 3「街に郊外型大型スーパーがやってくる」・・・・・・	35
教材 4「選挙って難しくない！他人ごとから自分ごとへ」・・	51
教材 5「自分たちで選挙の仕組みを変えてみよう！」・・・・	62
教材 6「自分たちの理想を実現する政党づくり」・・・・・・	71



教材の概要

教材 1「新聞ヨム、社会ワカル、投票率カワル」	
目的、特徴	「情報を多面的にとらえ、自らの視点で読み解く」というメディアリテラシーを習得する。
手法	N I E、複数紙の読み比べ
テーマ	新聞をいろいろな角度から見つめる。
資料	新聞記事(複数紙)
教材 2「話し合いを重視した身近な社会問題学習」	
目的、特徴	成人の豊富な経験を活かす。 経験に縛られた発想を柔軟にする。
手法	参加者同士の話し合い。
テーマ	身近な社会問題。この教材では、一例として、未婚化・少子化を取り上げている。
資料	新聞記事やDVDを使用。 題材に関し、複数の考え方が示されているもの。
教材 3「街に郊外型大型スーパーがやってくる」	
目的、特徴	社会的問題の多様性・複雑性について実感を持って捉えることができるようにする。 社会的問題を考える時に、自分だけでなく社会の様々な立場の人を意識させる。
手法	ロールプレイ
テーマ	大型スーパーの進出をめぐる街の将来像をどう描くか。
資料	役割カード

教材 4「選挙って難しくない！他人ごとから自分ごとへ」	
目的、特徴	政治や選挙が暮らしに直結する身近なものであることを意識させる。候補者選定行動を育成する。 学習の動機づけを意識して開発。
手法	概念化シート、K J 法、ランキング
テーマ	参加者が普段願っていることとそのために必要な施設などはないか、そしてそれが現状のまちにあるかを考える。そのことが、選挙時の候補者選定行動としてつながることに気付かせる。
教材 5「自分たちで選挙の仕組みを変えてみよう！」	
目的、特徴	選挙とは与えられた仕組みではなく、自ら積極的に活用して政治に参加する手段であると捉え、選挙の目的と機能を学ぶ。
手法	グループ討議
テーマ	選挙で決めるべきこととそうでないことを区別する。よりよい選挙の仕組みを考える。
教材 6「自分たちの理想を実現する政党づくり」	
目的、特徴	政治は自分以外の誰かがやってくれるという意識から、自分たちが主役であるとの意識転換を狙う。
手法	グループワーク、模擬投票
テーマ	ある政治課題に関して、自分たちの理想を実現するために、仲間と政党をつくり、候補者を立てて選挙(模擬)に出る。
資料	題材として取り上げた政治課題に関する新聞記事など。

教材1「新聞ヨム、社会ワカル、投票率カワル」

～情報を多面的にとらえ、自ら読み解く力を磨く～

クイズに挑む、メディアの特性を知る、見出しをつける、各紙を読み比べる…
新聞をいろんな角度から見つめ、楽しく自由に語り合うことで、新しい世界を広げる。

1 教材の特徴とねらい「新聞を教材に」

N I E という手法

あふれる情報をどう取捨し、学びや暮らしにどう生かすか。情報爆発時代を生きる私たち一人ひとりにとって、切実な問題です。ここでは新聞を教材にして、**①社会をみつめる力②考える力③表現する力**の育成を目指します。それが「情報を多面的にとらえ、自らの視点で読み解く」というメディアリテラシーを育み、ひいては市民性の向上につながると考えるからです。

新聞を教材として活用する手法は、N I E (Newspaper in Education = 教育に新聞を)と呼ばれ、世界60カ国以上で展開されています。日本ではおよそ30年前から始まり、教育現場と新聞業界による推進組織が全都道府県に設置され、多彩な活動が展開されています。特に「全教科での言語活動の充実」を柱にした学習指導要領の実施に伴い、小中高校の教科書に新聞が幅広く登場するようになり、生きた学習材として注目が高まっています。

近年、N I E は児童生徒に限らず大学・専門学校、社会人、高齢者、家庭など幅広い層で実施され、効果を挙げています。体験者からは「社会への関心が高まった」「ものの見方が変わった」などの声が聞かれます。また、新聞を読む人ほど投票に対する意識が高いというデータもあり、主権者教育とも直結していると言えます。

2 学習の進め方、考え方

学習時の質問には大別して、①「正解がある(答えは1つしかない)」問題と、②「正解がない(答えはいろいろある)」問題—の2種類があります。①は「ゴルフの石川遼の出身高校は」といった問いで、②は「氷が溶けたら何になる」といった問い掛けです。①は知らなければ答えようがありませんが、②は「水になる」のほか「春になる」という答えもあり得ます。つまり、②は知識を試すものではなく、考えれば何かが生まれるという世界です。

新聞学習で行う学びは、②に近いものです。「(～について)知っていますか」というやり方ではなく、「(～について)どう思いますか」という問い掛けが基本となります。どう思うかは人によってそれぞれですから、「(～について)私はこう思う」と明確に言いさえすれば、それが答えになります。言い換えれば、学習の方針として受講者に「何かを教える」のではなく、その人が持っているものを「引き出す」という姿勢が大切になります。

一方、受講する側は「恥をかく」ことを恐れてはいけません。「これぐらいのことしか知らないと思われたくない」などと格好をつけたりすると、その場は何とか切り抜けられても、自分の身にはつきません。今の自分をさらけ出すことが肝要です。そうすれば大方、恥をかくことにはなりますが、そこに勉強する意味があります。自分をさらけ出して、大いに恥をかく。それが、学ぶことです。

(1) 準備する物

- ・新聞 なるべく複数紙を用意
- ・切り抜き記事 できれば日頃から留意してストックしておく
- ・ワークシート

(2) グループ分け

3～5人程度が理想的。

3 展開・学習の手順

(1) ウォーミングアップ 新聞を身近に感じてもらうため、クイズでスタート

① 題字は大事 → 解説18頁



新聞の表札ともいえる題字には、バックに図柄(地紋)が描かれているものが多いです。例えば熊本日日新聞の場合、題字には何種類の絵が書かれ、その意味するものは何、と問いかけます。日頃見過ごしがちな題字ですが、そこに込められた独自のメッセージを読み取ると新聞への興味も湧きます。いろんな地方紙、全国紙の題字をじっくり眺めてみましょう。

② 何の写真？ 質問で迫ろう → 解説18頁



記事は概ね文字と写真からなっています。そこで写真だけを示し、それが何を意味する写真であるかを考えてもらうゲームです。

質問を重ねることで解答に迫るやり方ですが、解答者は質問に対しては「YES」か「NO」でしか答えません。この写真の場合、「写

っている車はパトカー？」(YES)という問いは有効ですが、「中央の人物は何をしているの？」といった質問はNG。質問力をつける練習にもなります。

③ テレビ番組、どこか変？ → 解説18頁

4 00 夕方いちばん 福岡の
半端ないバス旅！▽金
沢のお土産が大人気▽
5 直近天神ファッション
樹木もまぶしい秋の旅
6 最高の味覚▽Nスタ
終わらない音楽への愛
回を重ねカントリーG
!!必ず会える約束の日
6.50ちびっ子◇54パンパカ

新聞で一番読まれるのはラテ(ラジオ・テレビ)欄。短い字数で番組内容をどう伝えるか工夫を凝らしてありますが、この番組表記はかなりユニーク。さてどこが…、と問いかけます。難しそうな場合は「左端の1文字をタテに読んで」とヒントを出します。

(2)メディアって何？

①「不便益」という発想 →ワークシート1(21頁)、発想例19頁

不便益とは、一見不便に思えるが実はそこがすごい、ためになるという考え方。例えば手紙。電子メール全盛の中で不便そのものに思えますが、手紙でしか伝えられないもの、手紙ならではの味わいといったものがあります。そろばん、扇風機、障子…他にも私たちの周りにはいろんな不便益がありそう。グループで話し合って発表します。

グループ発表の中で「新聞」と出てきたら、それをテーマに深めます。新聞が出てこない場合は、「不便益の最たるもの、実は新聞かも」と切り出し、新聞の不便な点、有益な点についてのグループ討議・発表に移ります。

発表内容が似通ったものにならないよう、各グループに対しては「内容の重なりはダメ。そのためには幾つもの事例を考えて」と呼び掛けると、より論議が深まります。

新聞の不便な点としては「リアルタイムで情報を得られない」「金がかかる」「読むのに時間がかかる」など、有益な点としては「自分に興味のない情報も入ってくる」「一覧性がある」「見やすさがある」「切り抜いてためておける」などが想定されます。これは一例に過ぎず、自由な論議を通じてユニークな発想が生まれる雰囲気づくりを心掛けましょう。

②各メディアの長所、短所を知ろう →ワークシート2(22頁)

新聞の不便益に目を向けた次は、いろんなメディアについて考えます。テレビ、ラジオ、インターネット、書籍、週刊誌などの分野ごとにグループを分け、それぞれの長所、短所を話し合って発表します。

要は、「誰かに何かを伝えたい時の情報の乗り物」とも定義づけられる各メディアには、それぞれ特性があることを実感してもらいます。各メディアの持ち味は何かを知って、それを生かすことが多メディア社会を生きる私たちにとっていかに重要であるかを確認したいものです。

(3)新聞のチカラ

①「伝える」と「伝わる」は別

新聞を教材として使う上で、記事の表現上の特性について紹介します。

何かを人に伝える際に最も心したいことは、「伝える」と「伝わる」は別、という考え方。何かを話したり書いたりする時、伝えようとする内容が自分に理解できることは当然のことですが、それがそのまま他人に伝わるかとなると、別問題という意味です。

現場を見ていない読者に、どう表現すれば的確に伝わるかー記事は常にこのことを心掛けています。新聞社に「デスク」という職務が存在するのも、そのためです。現場に出向いた記者は、記事をどう書いても自分では理解できますが、それが読者にきちんと伝わるかという視点でデスクはチェック作業を行います。第三者の目で見ることであり、最初の読者とも言えます。独り善がりにならないよう、デスクのような客観的な視点を自分の中にいつも持っておくことは、記者ならずとも誰にでも求められることでしょう。

相手に「伝わる」ための新聞の表現作法として、「要点をつかむ」「大事なことを先に書く」「正確に分かりやすく」「具体的に」「事実と意見を区別」一などが挙げられます。ここではその一部を例示します。

②要約のワザ～見出しパワー →解説19頁

記事には大小の見出しがついています。見出しとは、記事の内容を一口で言い切った要点であり、コンパクト(短く)かつインパクト(訴える力)が求められます。具体的には①一番伝えたいことを簡潔に表し、全体像が分かるようにする②文中の言葉を生かし、数字を使うなど中身を具体的に伝える一などがポイントです。

論より証拠。あるスポーツ記事を例に、空白にした見出し欄を埋めるワークショップをします。見出しは「正解がない」ものの一つで、この見出しでないと間違いということはありません。よって多彩な見出しが出てくることを期待したいものです。見出しの字数にばらつきが出ることを防ぐため、記者がつけた実例の文字数を目安にします。また、グループ発表の際は参加者が一覧できるよう、空欄部分を拡大した用紙を使うと効果的です。

シヨット 絶品歴史的快拳

[illegible]

出たが「すぐに切り替えた」とコートの奥深くまでシャトルを返してリズムを取り戻し、ネット際に落とすショットを織り交ぜて相手を翻弄（ほんろう）した。

ヒロイン

3歳のときに親にせがんで自転車の補助輪を外してもらい、1日で乗りこなした拔群の運動神経。前後左右に揺さぶられて姿勢を崩されかけても、的確な返球ではね返した。日本代表の

ヒロイン

佐藤明治コーチが「天性のバランスの良さがある」と評する能力の高さで予選からの7試合を勝ち抜いた。半身を保ち、シャトルを引きつけるフォームで相手を棒立ちにさせる鋭いショットが絶品。156cmの低い身長も手強い、対戦相手から「出所が見えづら」との声が相次いだ。2020年東京五輪期待のニューヒロインは「まだ1回勝っただけなので、おごらず一から頑張りたい」と謙虚に成長を誓った。（菊浦）

いろんな見出しが出ることで会場は盛り上がりますが、学習のためには実例を示しながら次のような指摘をします。

- ・見出しは最低限、主語と述語が必要(この例では「山口」「優勝(V)」)
- ・主語と述語だけではそっけないので、ニュースの価値を盛り込む(この例では「日本勢初」)
- ・最大の見せどころは「16歳」。山口を知らなくても、16歳という若さが未来の可能性を感じさせ、読者を引き付けることになる。

11

③事実と意見(客観と主観)を見分ける

「事実的な文章はどちら？」

問ア A「長澤まさみは日本で最も魅力的な女優だ」

B「長澤まさみの父親は元サッカー日本代表だ」

答 Bが事実的。

Aは異論を唱える人がいる可能性もあり、意見(主観)といえる。

問イ A「今日は6日ぶりの真冬並みの寒さになりそうです」

B「今日は6日ぶりの真冬日になりそうです」

答 「真冬並み」と感じるかどうかは個人差があるから、それを「6日ぶり」と線引きすることはできず、意見(主観)といえる。一方、Bの「真冬日」は最高気温が零度未満と定義されるから、客観データに基づいた事実的表現といえる。

事実とは、そのことを知っているかどうかの問題ではなく、何らかの方法で調べたら全員が同じ結論にたどりつくことを指す、という定義があります。

では、新聞は全てが事実的かといえれば必ずしもそうではなく、紙面には事実と意見が混在しています。記事のどこが事実的で、どこが意見なのかを見分ける必要があります。子供などはともすれば、新聞やテレビなどで報道されることは全て事実と思いがちですが、そこには事実と意見があり、それを区別できる力を身につけさせたいものです。

そもそもメディアは編集されているのです。例えば何か大きな出来事があると、新聞には「識者談話」が掲載されますが、識者としてどんな立場の人を登場させるかという段階で既に、一種の編集が行われているといえます。テレビやラジオのニュースにしても、一定の時間内にどのニュースをどの順番で、どの程度の分量で伝えるかということは、まさに編集です。よってここでも、ニュースの目立ち具合などの要素に左右されることなく、情報を多角的にとらえ、自らの視点で読み解くというメディアリテラシーが求められます。

スポーツ中継ではアナウンサーと解説者の2人が登場しますが、アナウンサー

(4)各紙読み比べ

②紙面は百面相

平和祈念式でたてられた原子爆弾犠牲者9万人の慰霊の銅像

[illegible]

13

もちろん、見出しは各社が独自に判断してつけますが、図らずも同様の見出しになったのは、市長の平和宣言の「日本政府に被爆国としての原点に返ることを求める」という言葉が、記者の胸に強く響いたためと思われます。

イ 各紙の1面トップ記事が全部バラバラ

政治や経済の表立った動きが起きにくい休み(土・日・祝日)明けの紙面にありがち。これという決定打のない日は、どの記事をトップに仕立てるか各社苦勞します。よって、休み明けの紙面は各紙の個性が表れやすいともいえます。

ウ 扱いは相対的

特定秘密保護法が平成25年12月6日深夜、国会で成立しました。国政の根幹にかかわる問題であり、国民の関心も高い法案とあって、各社とも大方が翌日朝刊の1面トップ扱いにしましたが、実はこの日、南アフリカのマンデラ元大統領死去というビッグニュースも飛び込みました。もし、特定秘密保護法の成立がなければ、元大統領死去がトップ扱いになったと思われますが、各紙とも国内ニュースを優先し、死去のニュースは準トップとなりました。記事の扱いの大小は絶対的なものではなく、相対的であり、他のニュースとの兼ね合いによって決まります。よって、小さい扱いだからといって大したことのない記事、とはなりません。

③社説を比較 →ワークシート3(23頁)

新聞社の主張を示す社説の重要性は言うまでもありません。ある特定のテーマについて、各紙が社説でどう取り上げたかを比べると、その論調に明確な、あるいは微妙な違いのあることが分かって興味深いものです。「社会のいろんな出来事を多面的にとらえ、それを自らの視点で読み解く」というメディアリテラシーを実感するうえで、社説の読み比べは格好の教材となります。

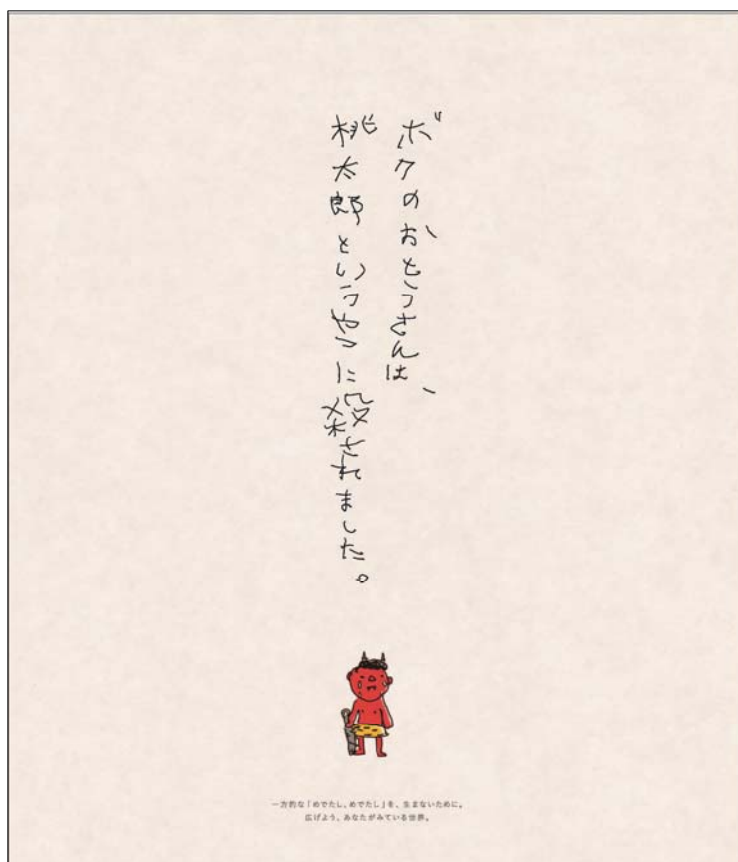
例えば、平成25年12月6日成立の特定秘密保護法をテーマにした各紙社説を比較します。社説の見出しを幾つか拾うと、「憲法を骨抜きにする愚挙」「抜本的な欠陥是正を急げ」「適正運用で国の安全保て」「国家安保戦略の深化につなげよ」となっており、論の展開の違いがうかがえます。

まずは一人ひとりで読み込み、次にお互いが気付いた点をグループで話し合います。ワークシートでは、①共感する主張②違和感を覚える表現③その他気付いた点の3項目を立てましたが、項目を分けずに自由に語り合うこともできます。

社説は硬いイメージがあり、しかも読み込むのに時間がかかるため、対象者によっては敬遠されることもあります。読み比べは社説に限らず、コラム、皇室敬語の使い方、「人」欄の取り上げ方、スポーツ記事の扱い方など幅広いジャンルでできます。その際、比較しやすいように、できれば各紙同じテーマを取り上げた記事を使う方が効果的です。

(5)これ何の広告？ →解説19頁

ある新聞広告。「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました」というキャッチコピーと鬼の子供が泣いているイラストだけを示して、誰が、何のために出した広告かをクイズで問います。



(熊本日日新聞、平成25年12月16日付)

実際の回答例として、「鬼の名がつく焼酎の宣伝」「桃太郎の名がつくノリのPR」「岡山県のアピール」「人権への配慮呼び掛け」などがありました。

場の展開に応じて、鬼のイラストの下に小さく書かれた、次の言葉をヒントとして示します。「一方的な『めでたし、めでたし』を、生まないために。広げよう、あなたが見ている世界」

このヒントを示すと、単にモノを売る広告ではないかと察する人が出て、新たな展開が期待できます。

要は、物事を一方的な視点だけでとらず、相手の立場に立って考えることの難しさ(必要性)を訴えた広告で、しかもスポンサーが日本新聞協会というところがミソです。

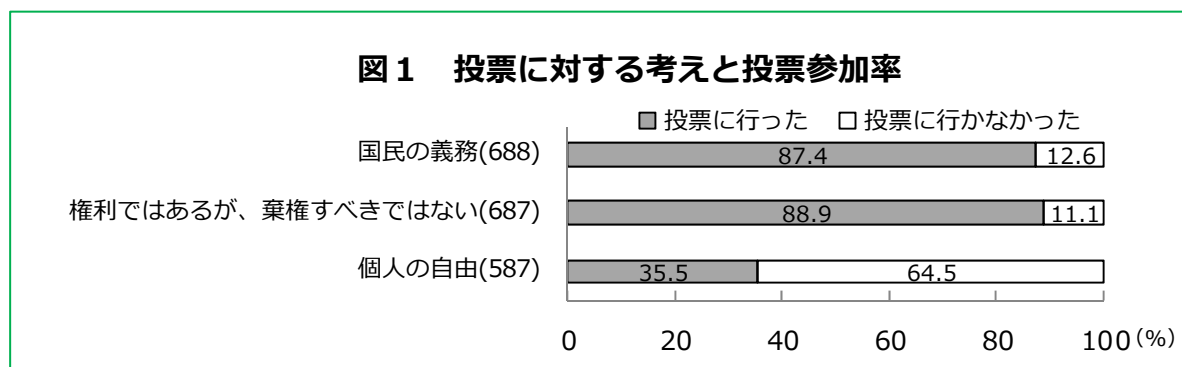
(6)新聞と投票行動(投票率高い新聞読者) →参考資料20頁

投票率クイズ「新聞を読む人の投票率は何%でしょうか？」

- ・ 自民党が圧勝した平成24年12月の衆院選。さて、新聞読者は何割が投票に行ったと思いますか、とアンケート結果を問い掛けます(ちなみに同選挙の全有権者の投票率は60.11%)。
- ・ 平成25年7月の参院選。同様に、新聞読者は何割が投票に行ったかを問います(この時の全有権者の投票率は52.6%)。

衆院選90%、参院選85%—新聞を読んでいる人は極めて高い割合で投票に行くという事実を、端的に示した2つのデータです。ただ、新聞社が行った読者アンケートという点で、やや“身びいき”の印象を受ける人もあるかもしれません。そこで、公益財団法人明るい選挙推進協会が、全国の有権者3,000人を無作為で抽出して実施した意識調査の結果を紹介します。

図1は投票に対する考えと投票参加率のデータ(平成25年参院選調査)です。選挙で投票することは「国民の義務」「権利だが棄権すべきではない」「個人の自由」のいずれの考えに近いかという、投票に対する意識が投票参加率に与える影響をみたものです。「国民の義務」を選択した人の87.4%、「権利だが…」を選択した人の88.9%が投票に行ったと答えています。一方、「個人の自由」を選択した人で投票に行ったと答えた人は35.5%にとどまっています。



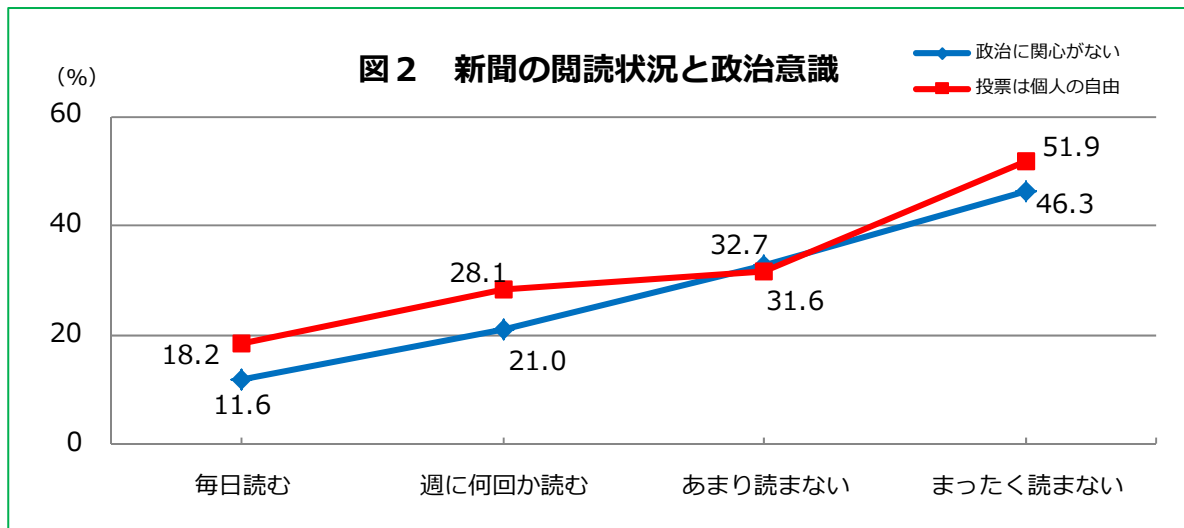


図2は、新聞の閲読状況と政治意識のデータ(平成21年2月有権者調査)で、「投票は個人の自由」「政治に関心がない」と答える人ほど、新聞の閲読状況が低くなっています。

上記二つのことから「新聞を読む習慣の有無は、投票への動機づけに相応の影響を及ぼしていると思われる」と同協会は分析しています。

(7)「新聞ヨム、社会ワカル」+「投票率カフル」

日本には100社を超える新聞(日本新聞協会加盟)があり、毎日、4700万部の新聞が発行されています。なぜそんなに必要なの、資源(紙)の無駄遣いでは、といった声も一部にあるかもしれませんが。しかし、それぞれの“顔”を持つ新聞が多様に存在し、それが有権者の社会を見つめる目の広がりや深化につながり、ひいては日本の民主主義の一端を支えることになるという見方は、決して大げさではないと考えます。

日本新聞協会が有名タレントを起用して作成した「春の新聞週間」用のポスターがあります。そのキャッチコピーは「新聞ヨム、社会ワカル」です。「ワカル」をもじると「カフル」となります。

そこで、「新聞ヨム、社会ワカル、投票率カフル」(新聞をヨムと社会がワカル、ひいては投票もカフル=アップする)という新(珍?)コピーの誕生です。メディアと投票率との間に、こんなつながりが生まれることを願ってやみません。

ウォーミングアップクイズ①「題字は大事」

星、月、太陽、山、森、象、虎、鳥、川、男女など20種以上が描かれている。世に存在するあらゆるもの(森羅万象)を、人間の喜怒哀楽も含めて掲載したいというメッセージを込めている。

・意味を読み取るのが難しい題字については、その新聞社に聞くと教えてくれる。

ウォーミングアップクイズ②「何の写真？」

パトカーで試験会場に着いた、遅刻しそうな受験生＝8日、ソウル市内(聯合＝共同)



◆大学入試、警察も奔走 受験競争が激しい韓国で8日、日本の大学入試センター試験に相当する大学修学力試験が行われ、警察が遅刻しそうな受験生を試験会場に送り届け

約3千人の警官を配置し、交通整理や受験生の送り届けに対応。メディアが試験の出題傾向を速報するなど、国中が受験ムード一色となった。

た、後輩が校門前で集団で応援したりする毎年恒例の光景が見られた。ソウル地方警察庁は、ソウル市内の試験会場周辺や主要交差点などに普段の倍近くの

(ソウル共同)

(熊本日日新聞、平成24年11月9日付)

ウォーミングアップクイズ③「テレビ番組、どこか変？」

左端の1文字をタテに読むと「半沢直樹最終回」となる。平成25年の人気テレビ番組「半沢直樹」の最終回を控えて、その告知を遊び心たっぷりに盛り込んだもの。作成したテレビ局(RKK熊本放送)の担当者によると、こうした“チャレンジ”は珍しいケースで、残念ながら気付いた読者は少なかったという(熊本日日新聞、平成25年9月20日付)。

「新聞の不便益」大学生の発想例

(公益財団法人明るい選挙推進協会主催の研修会、平成25年12月15日、熊本市)

新聞の不便な点

「自分の知りたい情報がどこにあるかわからない」「リアルタイムに情報を得られない」「テレビより情報が遅い」「コンパクトでない」「おカネがかかる」「自分に興味のある情報が手に入らない」「情報が一方通行である」「読むのに時間がかかる」「配達が必要」「活字が小さくて読みにくい」「紙のため破れるなど材質的に弱い」

新聞の有益な点

「自分に興味のない情報も入ってくる」「一覧性がある」「地元の情報が得られる」「広告が多数掲載されている」「見やすさがある」「何度でも読み返せる」「切り抜きができてためておける」「情報が一度にたくさん手に入る」「リサイクルに使える」「靴を乾かすことに使える、窓を拭ける、物を包むことができる」

要約のワザ(見出し実例)

16	歳	山	口	日	本	勢	初	V
----	---	---	---	---	---	---	---	---

コラムのタイトル

- ・産経抄 産経新聞
- ・春秋 西日本新聞
- ・春秋 日本経済新聞
- ・新生面 熊本日日新聞
- ・天声人語 朝日新聞
- ・編集手帳 読売新聞
- ・余禄 毎日新聞

これ何の広告？

日本新聞協会が平成25年度、「しあわせ」をテーマに募集した「新聞広告クリエイティブコンテスト」の最優秀作品。作品タイトルは「めでたし、めでたし？」で、審査員から「逆からの視点で幸せとは何かを考えさせる発想が抜きんでいて」と評価された。ある人にとって幸せなことでも別の人から見ればそう思えないこともあるとして、一方的な見方は禁物だと教えてくれる。これはメディアリテラシーと直結する視点であり、新聞というメディアの自戒でもある。

新聞読者の投票率

新聞読者の9割投票

衆院選で8紙が調査

日本経済新聞など新聞8紙の読者アンケートで、90%が昨年12月の衆院選で「投票に行った」と回答したことが24日、分かった。

8紙の読者を対象に調査するシステム「ジェイ・モニター」を利用して衆院選後の昨年12月17～22日にインターネット上で実施。首都圏、近畿圏、中京圏、福岡県の有権者3207人が回答した。

投票に行った人の割合を年代別にみると、60代が95.7%で、20代は80.2%だった。

投票先を決める際に参考にした情報（複数回答）は、新聞記事が74.8%と最も多く、次いでテレビ番組46.5%、選挙公報28.0%と続いた。投票する際に重視した政策（複数回答）は「原発・エネルギー政策」「経済政策・景気対策」「年金制度」「外交・安全保障」の順に多かった。

衆院選が決まってから「普段より新聞を詳しく読むようになった」「新聞を読む時間が増えた」との回答も多く、担当者は「選挙期間中、新聞を通じ選挙の争点などを把握した読者が多かったようだ」と分析している。

（熊本日日新聞、平成25年1月25日付）

◆85%が参院選投票
中日新聞など新聞13紙の読者アンケートで、7月の参院選で「投票した」と答えたのが85.6%に上った。参加各社が15日付で発表した。

新聞広告の効果を共同で調査するシステム「ジェイ・モニター」を利用し、選挙後の7月22～27日にインターネット上で実施した。

北海道、首都圏、中京圏、近畿圏、福岡県に住む20～69歳の読者4386人が回答した。投票した人を年代別にみると、20代が74.1%だったのに対し、60代は93.2%に上った。参院選の投票率は52.6%。

（熊本日日新聞、平成25年8月15日付）

ワークシート 1「新聞の不便益」

不便な点	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
有益な点	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

ワークシート2「メディアの長所・短所」

メディア	長所	短所
テレビ		
ラジオ		
インターネット		
書籍		
週刊誌		

ワークシート3「社説読み比べ」

新聞 (五十音順)	社説のテーマ「〇〇〇〇〇〇」		
	共感する主張	違和感を覚える表現	その他気付いた点
〇〇新聞	(個人)		
	(グループ)		
〇〇新聞			
〇〇新聞			

教材 2「話し合いを重視した身近な社会問題学習」

身近な社会問題をテーマに、成人の豊富な経験を生かし、話し合い学習の手法を用いて、経験に縛られた発想を柔軟にする。

1 教材のねらい

成人の豊富な経験を有用な学習資源と捉え、参加者同士の話し合いを重視します。話し合いで扱う題材は、講習会、研修会の参加者の属性(年齢、所属組織等)に応じて、身近な社会問題を取り上げた新聞記事やDVD等の視聴覚資料を使用します。参加者にとって、他者と共に学ぶことを通じて、多様な考え方や価値観を学び、自身の価値観や考え方を変容させる機会となります。

2 学習者としての成人の特性と学習支援の方法

近年、生涯学習という言葉がよく聞かれますが、これは、学校制度の普及が進む中で、人間の学ぶという行為が、乳幼児期、青少年期だけでなく、中年期や高齢期も視野に入れて考えられるようになってきたことを意味しています。そうした中で、成人の学習を支援する方法が探求されるようになり、子どもを対象とする教育の原理・方法とは異なることも明らかになってきました。以下に示すのは、代表的な三つの重要な視点です。

①成人の豊富な経験は有用な学習資源であり、それを学習場面で活かす。

②成人の経験に縛られた発想を柔軟にする。

③成人が学習する理由は、成人期における社会的役割とも関係している。

①に関しては、成人は、長く生きている分、豊富な経験を有しており、こうした経験が有用な学習資源となるということです。このことは、職場の研修や、市民活動の実践など様々な場面で、ワークショップという学びの方法が積極的に取り入れられ、参加者が意見を出し合いながら、共に学び合うという参加型学習が行われていることにつながっているといえます。

②に関しては、成人は豊富な経験をもつ半面、経験に縛られた発想が、決めつ

けや思い込みや固定観念となって、新たな事柄を吸収できないなど、かえって学習の障壁になることもあるということです。したがって、こうした成人のかたくなな発想や意識を柔軟に変容させていくきっかけを作る上でも、他者と共に学ぶことは重要となってきます。

③に関しては、成人が学習する主な理由は、成人期における社会的役割に基づいた発達課題と関係しているということです。つまり、乳幼児、青少年の場合は、人格の形成、将来に向けた基礎学力の定着等が、学習する大きな理由となるのに対して、成人の場合は、就職、労働、結婚、育児、介護等の生活上の課題解決のために、学習する場面が非常に多いといえます。したがって、成人の主権者としての意識を高めていく上で、日常の身近な社会問題を題材とすることは有効といえます。

3 話し合い学習の進め方

(1)全体の流れと所要時間

- ・趣旨説明(10～15分)
- ・グループの発表と役割分担の決定(5分)
- ・アイスブレイク(15～20分)
- ・演習(20～30分)
- ・グループ討論(40～50分)
- ・休憩(10分)
- ・発表会(20～30分)
- ・参加者による振り返り(10分)
- ・まとめ(10～15分)

計 2 時間半程度

(2)事前に準備すること

- ①名簿の作成とグループ分け
- ②身近な社会問題から題材を選定(新聞記事、DVDなどを利用)
- ③話し合い学習に使用する演習シート、ワークシート、振り返りシートの作成

①参加者が決まり次第、名簿を作成し、グループ分けを行います。1グループあたりの人数は4名とし、なるべく各グループの構成員が多様(年齢、性、所属組織、職業、居住／活動地域など)になるように配慮します。全体の人数によっては、全グループを均等に4名ずつに分けることが難しい場合もありますが、その場合も3名または5名となるグループ数を最小限にとどめ、なるべく4名のグループを多く作って下さい。

②題材を選定する際には、下記の二つの視点を重視して下さい。

ア 短時間の新聞記事の読解やDVD視聴で、参加者が話し合いを行うことが可能な題材か

どのような題材を選定するかは、活発な話し合いとなるか否かにも関わります。限られた時間の中で、参加者が自身の経験等に照らし合わせて、身近に考えられるような題材が望ましいです。以下に例示するように、参加者の属性(年齢、職業等)もふまえて選定するとよいでしょう。ある程度の知識や情報が必要となる専門性が高いテーマで話し合いを行う場合には、事前学習や事前講義なども組み入れて、やや長めの時間で全体のプログラムを組む必要があります。

- ・大学生、若い社会人……就職、結婚など
- ・中年世代…子育て、男女共同参画、労働、ワークライフバランス、介護など
- ・高齢者……高齢期の健康、社会参加など
- ・全世代……防災、エネルギー、多文化共生、地域再生など

イ 取り上げる新聞記事やDVDに複数の考え方が示されているかどうか

政治的中立の観点からも、使用する新聞記事やDVDなどの資料において、「その題材に関して、一つの考え方だけでなく、複数の考え方が示されている」ことが望ましいです。

特にアの視点が重要となりますが、イの視点もふまえられれば、参加者同士の話し合いもより活発になることが期待できます。題材の選定は、非常に重要となりますので、企画の際に複数の人間が関わることを望ましいです。

※本教材では、例として「未婚」をテーマとする新聞記事を使用していますが、DVDや短いエッセイなどでも構いません。便宜上、実際の新聞記事の代わりに、記事の概略をA4サイズで掲載しています。新聞記事など読み物を利用する場合には、B4サイズ1枚程度の分量が望ましいです。

③各種シートの作成にあたっては、添付資料を参考にして下さい。

- ・ワークシート4(演習シートⅠ・アイスブレイク用) : A5サイズ →31頁
- ・ワークシート5(演習シートⅡ) : A4サイズ →32頁
- ・ワークシート6 : A4サイズ →33頁
- ・ワークシート7(ふり返しシート) : A5サイズ →34頁

※「演習シートⅠ」と「ふり返しシート」は、記入時間も短めに設定してありますので、参加者にプレッシャーを与えない意味でも、A5サイズぐらいにするのが望ましいです。

※「演習シートⅡ」の下部に、「自分の考えをまとめる上でのポイント」といった形で、参加者が、自分の考えをまとめていく際の注意事項などを記述しておくことが望ましいです。

4 学習の手順

(1)趣旨説明

「学習者としての成人の特性と学習支援の方法」(24頁)などをふまえて、豊富な経験を有している成人だからこそ、「話し合い」に意味があり、身近な社会問題を、他者と共に学ぶことを通じて、多様な考え方や価値観を学び、自身の価値観や考え方が変わっていくことに意味があることを伝えます。また、話し合いを行う際に、「他者の意見も聞く」、「自分の意見を他者に強要しない」等といった姿勢の大切さも説明します。最後にプログラム全体の流れを説明します。

(2)グループの発表と役割分担の決定

各グループで司会係2名(アイスブレイク1名、グループ討論1名)、記録係1名、プレゼン係1名を決定します。グループの4人全員に何らかの役割を与え

ることによって、参加意識を高める意味があります。3名のグループの場合には、司会係を1名とし、また、5名のグループの場合には、記録係を2名として、グループ討論の前半と後半で分けるなどして、対応して下さい。

(3)アイスブレイク(ワークシート4を使用)

参加者をリラックスさせ、参加意欲を高めます。3分ほどで簡単なブレインストーミングを各自にやってもらった上で、司会係(アイスブレイク担当)の進行のもとで、一人あたりの持ち時間を3分として、自己紹介と他のメンバーからの質問を受けます。アイスブレイクのテーマは、その後の話し合いの活性化につなげるために、参加者の属性や、当日の研修内容(学習内容)などをふまえて設定するのが望ましいです。

(4)演習(資料1／ワークシート5を使用)

短めの新聞記事(資料)を読んだ上で、**演習シートⅡ**の項目に即して、自分の考えを簡潔にまとめてもらいます。

(5)グループ討論(ワークシート6を使用)

司会係(グループ討論担当)の進行のもと、**演習シートⅡ**の項目に即して、参加者全員が意見を出し合い、話し合いを行ってもらいます。記録係は、**ワークシート6**に話し合いの内容を箇条書きでまとめます。

※参加者の人数がそれほど多くない場合、グループ討論後の休憩時間中に、各グループの記録係が作成した**ワークシート6**を全員分印刷して、休憩時間終了後に配布するのもいいでしょう。その後の発表会において、参加者は各グループの記録を手元におきながら発表を聞けますし、また、参加者にとって学習記録を持ち帰ることができるというメリットもあります。

(6)発表会

各グループのプレゼン係が、記録係が作成した**ワークシート6**に基づき、自分のグループの話し合いの内容について、全体に向けて、3分程度を目安とし

て発表します。グループ数が多ければ、発表会全体の時間を長めにとります。逆にグループ数が少なければ、各グループの持ち時間を長めにとったり、質疑の時間を設けたりするなどして対応して下さい。

(7)参加者によるふり返し(ワークシート7を使用)

グループ討論や発表会を通して、他者と学ぶことの意味や難しさをどのように感じ、また自身の中で変化が見られたか否かを、ふり返ってもらいます。

(8)まとめ

全体の総括を行います。その際に、以下の点に留意することが望ましいです。

- ・グループ発表を通じて、共通に出てきた重要な論点をあげます。
- ・各グループから出された多様な意見や視点の中で、ユニークと思われる視点を取り上げます。
- ・グループ発表においては言及されなかった他の重要な視点があれば提示します。
- ・新たな自分に気付く、出会うことは重要であることを説明します。
- ・最後に、参加者から回収したふり返しシートの中から、いくつか意見を紹介します。紹介する意見はランダムに選んで構いませんが、より有益な意見を取り上げたい場合には、全体の進行を担当している者が総括を行っている間に、短時間で、主催者の他のメンバーが、一通りふり返しシートを概観し、選び出すという方法もあります。

5 主催者が注意すべきこと

アイスブレイク、演習、グループ討論の間は、会場内を巡回し、質問に応じたり、各グループの様子を観察して下さい。例えば、全く会話が進まない、一人の人間が話しすぎている等があれば、少しの間同席して、適宜アドバイスするなどしてサポートします。回収したグループのワークシート6と参加者のふり返しシートは、次回の企画の際の参考資料とします。

資料1「新聞記事「未婚の若者がなぜ増えているのか」(X年X月X日)」

A氏：不安定な雇用がもたらす影響

- ・若者の不安定な就業構造が、結婚を選択することを難しくしている。
- ・若者の雇用を安定させるには、失業対策、経済政策のほかに、学校を卒業したり、中退したりして無業者になる前に、手助けをする必要がある。こうした若者に働きかけるには、進路指導の先生や地域の人、引きこもりを支援するNPOなどの役割がますます重要になってくるだろう。
- ・若者の雇用は安定しない。職に就けないから、自分が何者かというアイデンティティーも持ちにくい。雇用問題を解決しなければ、学校で教えても、若者に受け入れられないだろう。
- ・正社員でなくても、本人の能力があれば賃金が上がったり、長期雇用に移ったりできるケースも出始めている。そうした仕組みが整い、子育てで一時離職してまた復職するといった多様な働き方ができるようになれば、出産や育児もしやすくなるだろう。若者の雇用対策と少子化対策を連動させながら、進めていく必要がある。

B氏：時代の変化に伴う若者の価値観や生き方の変化がもたらす影響

- ・結婚するのが当たり前といった風潮が弱まり、結婚という行為が選択となってきている中で、未婚が増えている構造もある。一定の結婚願望があったとしても、魅力がない相手とは無理に結婚しようとは思わなくなっている。
- ・若い世代を中心に、ゲームやパソコンなど無機質なものと付き合いが増え、目と目でコミュニケーションする機会が減っていることも、人としての魅力を低下させている側面もあるのでは。
- ・親族との付き合いが減り、子どもと接する機会も減る中で、街で見かけるのは他人の子どもであり、そもそも子どもをかわいいと思えなくなっているという内面の変化もあるのではないか。育児支援策も重要だが、若者の内面の変化に対応した支援策も重要となってくる。例えば、学校教育において、年少の子どもとふれ合う機会や、地域の様々な人とコミュニケーションを図る機会を積極的に作っていくことで、子どもをかわいいと思う気持ちが育まれたり、人間としてのコミュニケーション能力も高まっていくきっかけとなるのでは。

ワークシート4「演習シートⅠ(アイスブレイク用)」

グループ討論に備えて、特に下記の点に関して、あなたのことを説明できるように頭の中を整理して下さい。

(1)研修に参加したきっかけ(所属組織等)

(2)研修に参加するきっかけとなった所属組織(選挙啓発組織、行政機関、大学、民間団体など)での経験や活動(仕事)内容

(3)特に関心のある政治や社会問題のテーマ

ワークシート5

「演習シートⅡ(事例：「未婚化・少子化」という社会問題のテーマ)」

(1)二人の筆者の考えに対して

A氏の考えに対して

B氏の考えに対して

(2)資料に提示されている以外の視点は？

(3)その他、このテーマに関連することなら何でも

☆自分の考えをまとめる上でのポイント(事例にそくして)☆

- ・まずは、新聞記事で筆者が書いていることを理解することを心がけます。
- ・その上で、書かれていることに関して、A氏、B氏それぞれの考えに対して、賛成できる点、疑問に思う点などを提示します。批判的に読む視点も重視して下さい。

ワークシート6

グループ番号【 】

グループのメンバー(氏名・所属) _____

司会(アイスブレイク) : _____

司会(グループ討論) : _____

記録 : _____

プレゼン :

(1)二人の筆者の考えに対して

(2)資料に提示されている以外の視点は？

(3)その他、このテーマに関連することなら何でも

ワークシート7「ふり返しシート」

今日の研修会(学習会)をふり返して下さい。

(1) 取り上げられた題材(テーマ)は、あなたにとって関心のもてるものでしたか？
関心の高低とその理由を書いて下さい。

(2) グループ討論の前と後で、題材(テーマ)に対するあなたの考え方に変化はありましたか？変化の有無とその内容を書いて下さい。

(3) グループ討論のような、他者とともに学ぶことについて、どのような意味、あるいは難しさを感じましたか？

(4) 今日のテーマ以外で、他者とともに一緒に討論したいテーマがあれば書いて下さい。

教材3「街に郊外型大型スーパーがやってくる」

大型スーパー進出をめぐる街の将来像をどう描くかという、比較的身近で実感をもって考えやすい社会問題を取り上げ、その問題をめぐる様々な立場の人々をロールプレイ的に登場させ、疑似的な議論を行う中で、様々な立場の組織や人々が関係している社会問題をどのように考えていけばよいのかについての考えを深める機会とする。

1 教材のねらい

社会では解決が求められる様々な社会的問題が存在しますが、様々な立場や背景を持つ人々の多様な利害関係が絡んで、解決は容易ではありません。また、社会的問題の解決策は、利害が絡むすべての人々に影響を及ぼすものでもあり、考えて議論しながら解決策を決定していく上では、自己の利益だけでなく他の立場の人々の利害にも考えを及ぼすことが社会では求められます。

本教材は、ロールプレイなどを通じて社会的問題の多様性・複雑性について実感をもって捉えることができるようにするとともに、その解決策が様々な人々に影響を及ぼすことに気付き、自分だけでなく社会の様々な立場の人々を意識しながら社会的問題を考えることが民主主義社会においてどのような意味を持つのかについても考えを深められればと思います。

また、社会的問題の背景の複雑性に改めて気づき、社会的問題の解決が絡む政治上の問題解決が様々な人々の要望や課題をもとに行われていることにも思いをはせることで、自らの要望や主張が社会に100%達成されなかったという問題解決の結果だけに注目して直ちに政治不信や無関心に陥るのではなく、なぜそのような解決内容に至ったのかという問題解決の過程(プロセス)にも目を向けることで、社会的問題が自分だけの問題ではなく、自分たちの問題であるということ意識し、政治への関心や参加意識の向上につながる事をねらいとしています。

2 学習の進め方

(1) ロールプレイとは

役割カードに設定された人になりきってもらい、疑似的な会議として実際に議論をしてもらいます。基本的な立場は設定されていますが、台本は無いので、このような立場ならこのように考えてこのようなことを発言するだろうということを、その場で考えながら議論をしてもらいます。

(2) 全体の流れと所要時間

- ・アイスブレイク(10分程度の自己紹介型ゲーム)
 - ・ロールプレイの説明
 - ・グループ分け(役割別)
 - ・ロールプレイの準備(各立場をそれぞれが理解：立場を説明したカード有り)
 - ・社会的問題の把握(活気のない街の現状、郊外型大型スーパーの誘致をめぐる問題)
 - ・グループ分け
 - ・ロールプレイの展開(会議を開き、各立場になりきって議論をしてもらう)
 - ・ロールプレイの振り返り(議論を終えた後での感想や意見などの交流)
- 計4～7時間程度

※途中を簡略化したり、ロールプレイ型からワークショップ型に切り替えたりすることで、3時間くらいまで縮めることは可能です。

(3) 展開の仕方(複数のやり方があります)

①パターンA

参加者全員がいくつかのグループに分かれてロールプレイを行います。

- ・メリット：参加者全員の意識が高まる可能性が高いです。
- ・デメリット：ロールプレイが難しい参加者がいる可能性があります(どのような展開になるのかが読み切れないことがある)。

※複数グループが話し合いをするスペースの確保が課題となります。

②パターンB

参加者の一部がロールプレイを行い、あとの参加者はそれを傍聴するという会議の傍聴者の立場になってもらい、一通りのロールプレイによる会議メンバーの話し合いが終わった後に、フロア(傍聴席)からの質問という形で間接参加をしてもらいます。傍聴者役には、後で質問や意見を出しやすくすることをねらい、考えながら聞いてもらうためのワークシート9「傍聴者用ワークシート」を用意します。

- ・ メリット : ロールプレイが難しい方も参加しやすくなります。
- ・ デメリット : 傍聴者の学習効果が薄くなる可能性があります。

※ロールプレイをする方と傍聴者になる方とをどのように分けるかが課題となります。

③パターンC

ロールプレイ型ではなく、ワークショップ型として行います。役割カードに基づいてそれぞれの立場になりきってもらうのではなく、そのような様々な立場の人々がいる中で、どのような解決をするのが最も妥当だと思うのかということ話し合い、グループで結論を出してもらいます。その後、各グループの発表をもらい、全体でのふり返しを行います。

- ・ メリット : ロールプレイでのデメリットがおおむね解消できます。
- ・ デメリット : 学習効果が薄くなる可能性があります。

(5)準備するもの

- ・ 資料2「わたしたちの街の現状と郊外型大型スーパーの誘致問題」 →42頁
- ・ 資料3「役割カード」 →43頁
- ・ 資料4「話し合いのルール」 →46頁
- ・ ワークシート8「参加者用ワークシート」 →47頁
- ・ *ワークシート9「傍聴者用ワークシート」 →49頁
→展開の仕方・パターンBで使います
- ・ 模造紙、色マジック(8色ほどあるとよい)、付箋紙、全体用ホワイトボード

3 学習の手順(パターンA)

(1)アイスブレイク

アイスブレイクは、年齢や立場も様々な見知らぬ間柄である研修参加者の緊張感を解きほぐし、互いにコミュニケーションをとりながら積極的に発言していくことができるような雰囲気を作り、研修の効果を高めていくための大切なポイントになります。参加希望者の年齢構成などの背景をある程度把握した上で、適切な方法を選択して実施して下さい。様々なアイスブレイクの手法が書かれている書籍も出版されているので、参考にとすると良いと思います。

(2)演習の進め方の説明

- ①ロールプレイとはどのようなものかを理解してもらいます。
- ②資料2を使い、街の現状について、簡単に説明します。

(3)グループ分け(役割別)

年齢や職業、性別や居住地の状況等が多様になるように、役割設定の数に合わせてグループを作ります。主催者側で決めても良いですし、ここでもう一度アイスブレイクの時間を設け、ゲームなどを使ってグループに分ける方法もあります。最初のアイスブレイクで自動的に決まるようなゲームを行っておき、ここでその区分を発表する方法もあります。

グループができたら、簡単に自己紹介をしてもらいます。次に、仮の進行役を決めてもらいます。

そして各グループがどの役割になるかを発表します。あらかじめ役割指定を決めておきます。参加者に選んでもらうと、自分たちがやりやすいということから自分の立場に近いものを選択しがちになり、多様な立場の人々が絡む複雑性に気付いてもらうという研修の効果が薄れてしまう可能性があるため、主催者側で決めることが良いと思います。あるいは、くじ引きのような偶然性に任せた方法でその場で決める方法もあります。グループの代表者がくじを引くことで、主催者側によって一方的に決められてしまったという気持ちが、薄らぐ効果も期待できるかもしれません。

(4)役割の理解

各グループで役割カード(資料3)をよく読んで、自分が演じる立場を理解してもらいます。基本的な質問などがあれば受け付けても良いですが、細かい質問には答えない方向で対応してください。例えば「こういう場合はどう答えればよいのか」といった質問が必ずといっていいほど出てきますが、それも含めて考えて演じるのがロールプレイですので、「カードは台本ではないので、その立場ならどのように考えて発言するかということを自分で考えて下さい」、といった趣旨のことを回答してもらえれば良いです。

(5)社会的問題の把握

資料2「わたしたちの街の現状と郊外型大型スーパーの誘致問題」を使います。まずは、「人口・年齢・分布」「雇用・失業」「交通」「商業圏」等の分野別に街の現状を把握できるようにします。その上で、大型スーパーの誘致問題が持ち上がっていることを理解してもらいます。各役割グループで色々と考えられることを意見交換しましょう。

(6)グループ分け

ここで、実際にロールプレイを行うグループに分かれてもらいます。なお、「(3)グループ分け(役割別)」の段階での自己紹介で、誕生日(年は避ける)も言ってもらい、誕生日順にグループ分けをするという方法があります。単なるくじ引きでも良いかもしれません。

グループに分かれたら、それぞれにグループ名を単純に割り振った上で、各グループで進行役、記録役、発表役を決めます(進行役と記録係は、自分の役割を演じつつ、これらの役もこなします。記録係は2名選び、分担するなどの工夫をすると良いでしょう。発表者は、各グループの話し合いが終わった後に、全体での発表を行います。進行役は、役割カードの市役所担当者代表が行っても良いでしょう)。

*「(3)グループ分け(役割別)」の段階でいきなりグループに分けてしまい、「(4)役割の理解」を、参加者各自に単独で行ってもらうパターンもあります。同じ

立場でも考えることにばらつきが出てグループ毎の議論が多様化することが期待できます。しかし、同じ立場同士での事前の話し合いが無くなるため、各個人の負担感が増すことが考えられます。

(7) ロールプレイ 各グループでそれぞれ議論を行う

最初は意見が出にくいと思われるので、進行役が発言をうながしつつ、議論を行っていきます。その際には、資料4「話し合いのルール」を全員で理解をしておくようにします。各参加者が自分に割り振られた立場ならどのような事を考え、どのような意見表明や質問などを行うかを考え、積極的に発言して下さい。記録係は、他の記録係が発言しているときなどは必ず記録を行うように配慮しつつ、互いに適宜分担することが求められます。大型スーパーの誘致を認めるのか認めないのか、認めるとしたらどのような条件を出すのかなど、ポイントを明確にしながら議論を進めて下さい。

(8) 発表会

各グループの議論のポイントを書いた模造紙を貼りだした後で、発表者が議論の内容を発表し、他のグループからの質問などを受け付けて下さい。

(9) ふり返し

すべてのグループの発表が終わった後に、ファシリテーターが全体のふり返しを行います。その際には、今回のロールプレイが目指している意図や方向性に関する各グループの気づきに意識的にコメントをするなど、今回のロールプレイの活動の意図や目的が参加者で共有できるように、補足説明や質問などを適宜行って下さい。

4 役割

☆ファシリテーター(研修全体の企画・準備・指導など)

- ・参加者に合わせて、適宜演習の教材を作り替えるなどの工夫をして下さい。
- ・参加者が意見を活発に出して議論が進められるような雰囲気作りに努めて下さい。
- ・全体の流れに目配りをしながらグループを回り、アドバイスを行って下さい。

☆司会者(各グループ：市役所の担当者代表が行っても良い)

- ・参加者の意見がスムーズに出るような雰囲気作りに努めましょう。
- ・発言者の発言内容を参加者全員が理解できるよう、ポイントを整理したり、必要に応じて質問したりしましょう。
- ・意見の押しつけや感情的な意見の応酬にならないように気を付けましょう。

☆各参加者

- ・街の状況や役割カードの内容、また、何が問題になっているのかを良く理解しましょう。
- ・あまり考え込みすぎないように、思ったことを素直に話しましょう。
- ・感情的にならないようにしましょう。

☆助言者(可能であれば、各グループに1名ずつ)

- ・グループでの進行がスムーズに行くように適宜助言します。
- ・議論の展開を見通しながら、内容のポイントを整理して助言しましょう。
- ・時間をオーバーしないように、進行の見通しを持って助言しましょう。
- ・ファシリテーターとも、必要に応じて相談しながら進めることに心がけましょう。

資料 2「わたしたちの街の現状と郊外型大型スーパーの誘致問題」

1 街の現状

私たちのA市は、人口約15万人の古くから開けた街です。昔は街道が通っていて、その宿場町としての役割を果たしていました。街道は今では国道となり、それに沿って鉄道もひかれ、その駅を中心に中心街が発展してきました。市役所も駅の近くの国道沿いにあり、昔からの街並みに人々が生活しています。その中心街には昔からある地元スーパーを核に商店街が広がり、古くからの住民も利用しています。

中心街の渋滞がひどかったため、10年前に郊外に国道のバイパスが開通しました。それに合わせてバイパス沿いの郊外に住宅団地が開発され、そちらに引っ越して住む人が増えてきました。市全体の人口は余り変わっていませんが、中心街の人口は10年間で3割減っていました。

中心街の駐車場は狭くてあまり台数が置けず、不便でしかも有料です。郊外の団地に住む人々は、車で隣のB市の百貨店や大型スーパーに買い物に行くようになり、中心街のお客が減ってきています。地元スーパーや商店街の売り上げも減っていて、経営が苦しくなっています。

隣のB市は人口が50万人で、A市の北30kmの所にあります。工業都市として発展を続けていて、人口も増えてきています。大きな商店街に加え、全国展開をしている百貨店や大型スーパーもB市の中心にあります。規模も大きく、品揃えも豊かですが、駐車場が有料で、スペースの問題から週末は順番待ちになることもあります。

A市には大きな働き口があまりないため、B市の工場や商店に働きに行く人も増えていきます。A市では失業者も徐々に増えてきています。

2 郊外型大型スーパーの誘致計画

A市の市長は、このままではA市の中心街はさびれていき、人々は色々な面で便利なB市に魅力を感じるようになり、人口もいずれ減っていつてしまうのではないかと考えました。そのようなとき、全国展開している大型スーパーチェーンから、A市郊外の国道バイパス沿いに大きな郊外型店を出店しようとする計画が持ち込まれました。市長は、中心街ではなく郊外だという点に悩みましたが、車の便が良く、広い用地の確保も可能なのは郊外であるし、団地の近くでもあるのでA市の人々が地元で買い物をしやすくなるのではないかと考えました。また、バイパス沿いということから、A市だけでなく周囲の町の人々もA市に買い物にきてくれるようになり、A市がさびれていくのを防げるのではないかと考えました。

そこで、市長は市役所内に担当部署をおき、責任者を決めるとともに、市の人々にも計画を提案して意見を聞くことにしました。

資料3「役割カード」

賛成から反対まで、多様な意見が出てきそうな立場を用意します。役割カードをすべて使う必要はありません。参加者の人数やグループ数、研修の趣旨や参加者の職業や年齢と役割カードで設定されている立場とのマッチングの適切性などを考慮して、使用する役割カードを取捨選択して下さい。

また、本教材で設定した役割カードだけでなく、研修を開催する地域社会の状況や参加者の動向を見て、新たに作って入れ替えたりする工夫があると良いでしょう。また、同じ賛成・反対という結論でも、その理由が異なるような意見が出てきそうな立場、賛成・反対どちらにも決めかねるような期待と不安が入り混じったジレンマ状況になりそうな立場などを工夫して設定し、社会の複雑さが実感できるようにすることがポイントです。場合によっては、まちづくりの専門的知識を持った学識経験者のような立場も設定して、他の町のよい事例やよくない事例も話してもらうような客観的な立場も設定する方法もあります。この場合、役割カードを作るのが大変ですし、一般の人が演じるのも難しいかもしれません。開催側のスタッフが助言者兼専門家として話し合いに入る方法もあるかと思います。

【郊外住宅団地の住民】

- 30歳代の夫婦に小学生の子どもが二人の四人家族。
- 自動車でいつも通勤や買い物をしている。買い物は大きくて便利な隣のB市の百貨店や大型スーパーに行っている(商品が豊富で、子どもの遊戯施設もあるので、気に入っている)。◇郊外型大型スーパーができれば、B市まで行かなくても良い。

【シングルマザー】

- 20歳代の女性で3歳の子がいる。
- 中心街の地元スーパーでパートとして働いている。生活も苦しく、車は持っていない。子どもは職場のすぐ近くの託児所に預けている。
- ◆職場のスーパーが無くなったら困る。
- ◇郊外型大型スーパーに雇ってもらえるかも。
- ◆でも、車がないので通勤に困る。託児所と職場が遠くなり、支障が出る。◆道路の渋滞が心配。団地の住環境が悪化しないか心配。

【中心街の住民】

- ☐ 70歳代夫婦の二人暮らし
- ☐ 自動車や運転免許証は持っていない。
- ☐ 食料品等の日常生活の買い物は近くの商店街まで徒歩で行っている。
- ☐ 商店街の店の人やお客同士は顔見知りで、買い物だけでなく会話も楽しんでいる。
- ◆ 郊外型大型スーパーに押されて中心街の商店が無くなると、買い物や人付き合いができなくなって困る。
- ◆ 車がないので、郊外型大型スーパーには行けない。
- ◆ 中心街が寂れて治安が悪化するかも。

【大型スーパーチェーンの責任者】

- ☐ 郊外のバイパス沿いに数千台の駐車場を完備した大規模店をつくって、周辺の市町村からもお客を集めたい。
- ☐ 自社店舗だけでなく、テナント、遊戯施設、映画館なども入れたショッピングモールをつくりたい。
- ☐ 市の中心街との間で有料のシャトルバスを走らせたい。
- ◇ 商圏が広く、利益が期待できる。
- ◆ 一部の地元の反対が心配。

【商店街店主】

- ☐ 夫婦で店を経営している。
- ☐ 基本的には9時～19時までの営業。毎週火曜日が定休日。
- ☐ なんとか家族で食べていける状態。
- ◆ 郊外型大型スーパーにお客をとられるのでは。
- ◇ 郊外型大型スーパーからテナント出店の誘いがある。
- ◇ お客が増えて儲かるのでは。
- ◆ 郊外型大型スーパーの出店料が高くて払い続けられるのか心配。
- ◆ 無休で22時までの営業なので夫婦だけではやっていけない。
- ◆ なじみのお客さんが来られなくなるかも。

【地元スーパーの社長】

- 地元密着50年。地元のお客さんが多い。
- 経営は苦しいがなんとかやっている。従業員を50人雇用していて雇用条件も優遇し、社員が助け合っている。
- ◆駐車場などを広げるとは難しい。郊外大型店にお客をとられて倒産するのでは。倒産したら、従業員を解雇せざるを得ない。

【A市役所の担当者代表】

- 市の発展を願って仕事をしている。
- 中心街の再活性化を目指している一方で、郊外の発展も考えている。
- 限られた財源で、どのような政策をとればよいかを模索している。
- ◇市の人口も維持できて、今後の発展も期待できる。
- ◇団地の人口もさらに増えるかもしれない。
- ◆中心街と郊外団地の住民の意見調整に苦慮している。
- ◆中心街の空洞化は市として避けたい。

【高校・大学生】

- A市で生まれ、中心街にずっと住んでいる。
- 生まれ故郷の市には愛着を感じており、就職後も地元で住み続けたいが、就職口や居住環境の便利さで、他の市にも魅力を感じている。
- ◇郊外型大型スーパーが来て、買い物等で生活が便利で豊かになることが期待できる。
- ◇市の衰退が防げるかも。
- ◇就職口が増えるかも。
- ◆中心街の古い街並みが衰退して、母校がなくなってしまうかも。

資料4「話し合いのルール」

□自分の実際の立場を抜きにして、役割カードの人物になりきりましょう。

□グループ全員に伝わるように、わかりやすく話しましょう。

□話し合いが活発になるように一人ひとりが意識しましょう。

- ・あまり考え込まずに、思い付いたことを話しましょう。
- ・他の人の発言内容も良く聞きながら、自分の考えを深めましょう。
- ・他の人の発言を批判するのではなく、建設的な質問をしましょう。

他の人に議論で勝つことが目的ではなく、お互いの考えをわかり合った上で、みんなで一緒に考えることが目的であることを理解しておきましょう。

- ・進行役の発言や助言者のアドバイスを良く聞きましょう。

*もし、何か批判されたと感じたとしても、それはあなたが演じている役割(立場)に対しての事です。あなたの人格が批判されたわけではありませんので、感情的にならず、建設的な意見や質問をするようにしましょう。

ワークシート8「参加者用ワークシート」

氏名 _____

皆さんは、A市の住民です。A市の郊外団地近くのバイパス沿いに、郊外型大型スーパーの誘致計画が持ち上がっています。本日は、この問題をめぐって皆さんがある立場になって話し合いを行います。この問題は、自分たちが住んでいる市の生活環境の変化や将来の街の発展・衰退にも影響を及ぼすことが予想され、市の住民の皆さんにとって大切な問題でもあります。このワークシートを手掛かりにして積極的に発言して下さい。

1 あなたの役割

--

2 A市の状況

下に示されたポイントを観点にして、A市の状況についてのメモをとってください。示されたもの以外にも大切なポイントがあるかと思います。思いついたポイントを適宜付け足して下さい。合わせて、自分の立場ならこう考えるということだと思いついたことも合わせてメモをとっておきましょう

〔人口：年齢構成や市内での分布〕

〔市の中心や郊外の様子：公共施設や住宅地、交通など〕

〔市の産業・特に商業：商業圏など〕

〔雇用・失業〕

* 他にも気付いたことがあれば記入してください。

$$\left(\begin{array}{c} \vdots \\ \vdots \\ \vdots \end{array} \right) \left(\begin{array}{c} \vdots \\ \vdots \\ \vdots \end{array} \right) \left(\begin{array}{c} \vdots \\ \vdots \\ \vdots \end{array} \right)$$

3 郊外型大型スーパーの誘致問題について

自分の立場を基にして、2番で出てきたポイント等を考える観点にしてください。自分なりにメリット・デメリットを考えて下さい。また、話し合いを聞いていると、新たな疑問も出てくると思います。一番下の欄に書いておきましょう。話し合いの際は、メモをとることよりも発言を優先して下さい。

〔メリット〕
〔デメリット〕
〔その他・疑問点〕

4 自分なりの意見

話し合いを終えて、自分なりの結論を、理由を添えてまとめて下さい。また、今回の研修で気付いたことを、自由に書いて下さい。

--

ワークシート9「傍聴者用ワークシート」

氏名

皆さんは、A市の住民です。A市の郊外団地近くのバイパス沿いに、郊外型大型スーパーの誘致計画が持ち上がっています。本日は、この問題をめぐって様々な立場の人達が話し合いを行います。皆さんは、話し合いを聞きにきた傍聴者です。でも、単なる第三者ではありません。この問題は、自分たちが住んでいる市の生活環境の変化や将来の街の発展・衰退にも影響を及ぼすことが予想され、市の住民の皆さんにとって大切な問題でもあります。話し合いの後半では、傍聴者にも意見や質問の機会があります。このワークシートを手掛かりにして話し合いを聞いていただき、適宜メモをとりながらその内容を理解していただいた上で、後半の質疑で積極的に発言して下さい。

1 A市の状況

下に示されたポイントを観点にして、A市の状況についてのメモをとって下さい。示されたもの以外にも大切なポイントがあるかと思います。思い付いたポイントを適宜付け足して下さい。

〔人口：年齢構成や市内での分布〕

〔市の中心や郊外の様子：公共施設や住宅地、交通など〕

〔市の産業・特に商業：商業圏など〕

〔雇用・失業〕

*他にも気付いたことがあれば記入して下さい。

{ } { } { }

2 郊外型大型スーパーの誘致問題について

話し合いを聞きながら、1番で出てきたポイント等を考える観点にしていいただき、自分なりにメリット・デメリットを考えて下さい。また、話し合いを聞いていると、新たな疑問も出てくると思います。一番下の欄に書いておきましょう。

〔メリット〕

〔デメリット〕

〔その他・疑問点〕

3 自分なりの意見

話し合いを終えて、自分なりの結論を、理由を添えてまとめて下さい。また、今回の研修で気付いたことを、自由に書いて下さい。

教材4「選挙って難しくない！ 他人ごとから自分ごとへ」

「願い」と投票行動を結びつけるために

成人(主に20～25歳程度)を対象に、政治や選挙が自分たちの暮らしに直結する身近なものだということを意識し、自分の生活を基盤にした地域の改善に関わっていく態度を育てる。

1 教材のねらい

私たちは、普段何気なく暮らしていく中でも、「こうしたいな」、「こんなことができたらいいな」という希望にも満たない程度の漠然とした「願い」を持っています。具体的にこの「願い」とは、「できないのならいい」や「できるように努力する気はない」程度のものなので、私たちは、とりわけこの「願い」を実現させるために何らかの行動を起こしたりすることはありません。

我が国の選挙における投票行動にも、同様のことが言えるのではないのでしょうか。近年の選挙における投票率の低さは、選挙において候補者を選び、投票する行動に高い価値観を抱いていないということではないのでしょうか。それは、「自分の一票では何も変わらない」といった退廃的な感情や、候補者の主張が自分たちの暮らしとどのように関わっているかをイメージすることができず、政治と日常が乖離しているところに原因があるのではないかと考えます。実際に選挙において投票に行く人は、政治と自分たちの暮らしが密接に関わっていることを知り、「自分の一票を権利として自分たちのために行使する」意識がある人ではないのでしょうか。

そこで、私たちの普段何気なく「願っている」ものを可視化し、その実現が現在の社会状況において可能かどうかを検証するワークショップを行います。そして、「願い」を実現するために「必要なものは何か」「自分たちの町には今、何が足りないのか」を考えていく行為そのものが、選挙において「誰に投票するか」「自分の『願い』の実現に関して強く主張している候補者は誰か」という候補者選定行動をしていることに気付かせ、選挙をより身近なものとして捉え、実践行動へとつなげていけるようになることがねらいです。

2 政治に関心をもってもらうための方略

この教材は、アメリカの教育工学者ジョン・M・ケラーによって提唱されたARCSモデルを参考に開発したものです。ケラーは、学習の動機付けに関する膨大な心理学研究を統合して、実践者(ファシリテーター)向けに使いやすい形に整理しています。それがARCSモデルです。学習意欲の問題と対策を、注意(Attention)、関連性(Relevance)、自信(Confidence)、満足感(Satisfaction)の4つの要因から整理して、それぞれの要因に対応した動機付け設計の手順を示しています。このARCSモデルを参考にすれば、主権者教育の参加型教材開発にも応用できるのではないのでしょうか。少し紹介します。

①注意(Attention)

学習者の興味・関心を引き出し、注意を喚起できれば学習意欲が高まります。

- 知覚的喚起・・視覚的手段や具体的なもの。驚きやユーモアのある事象の提示。
- 探究心の喚起・・好奇心の刺激。学習者の「なぜ」を大切にする。今までの知識との矛盾を提示する。
- 変化性・・・・・リズムとテンポ。声の抑揚や変化のある繰り返し。

②関連性(Relevance)

学習課題が何であれ、やりがいがあると思えば学習活動への関連性が高まります。

- 目的指向性・・・意義のある目標の設定。今努力するメリットの強調。
- 動機との一致・・グループ対抗競技やゲーム化。安心感。心地よさ等。
- 親しみやすさ・・身近な事例。これまでの経験とのつながり。

③自信(Confidence)

達成の可能性が低いと思えば自信を失います。逆に、学び始めに成功体験を重ねたり、自分の工夫が成功に関係したと思えば「やればできる」との自信が付きます。

- 学習欲求・・ゴールの明示。チャレンジ精神の刺激。がんばればできそうなゴールの設定。

- 成功の機会・・失敗から学べる環境。スモールステップで具合を確かめながら進む。過去の自分との比較による成長の実感。
- コントロールの個人化・・個別のペースで進ませる。選択式ではなく記述式にする。学習者に方法を選択させる。

④満足感(Satisfaction)

学習をふり振り返ってよかったと思うことができれば、次の学習意欲につながります。

- 自然な結果・・成果を生かすチャンスを用意する。学習者同士で学び合う機会を提供する。
- 肯定的な結果・・ほめて認める。成果を喜び合う仲間をつくる。できたことを誇りに思わす。
- 公平さ・・えこひいきなしの公平感を与える。首尾一貫した活動運営を行う。

この教材は各項目について、下記のように意識して作成しています。

強く意識した項目は◎、意識した項目は○、やや意識した項目は△

要因	項目	教材 4
注意	知覚的喚起	
	探究心の喚起	△
	変化性	
関連性	目的指向性	○
	動機との一致	
	親しみやすさ	◎
自信	学習欲求	◎
	成功の機会	
	コントロールの個人化	
満足感	自然な結果	○
	肯定的な結果	
	公平さ	

3 学習のすすめ方

(1)学習対象

主に20～25歳程度の男女

(2)全体の流れと所要時間

- ・自己紹介(5～10分)
- ・グループワークシヨップ1(25分)、2(20～30分)、3(20～30分)
- ・個人ワークシヨップ(20～30分)とグループ内でのシェアリング(15～25分)
- ・まとめ(15分)

計2～3時間程度 *参加者の状況に応じて

(3)準備するもの

- ・ワークシート10「グループ用(あるもの・ないもの)」 →59頁
- ・ワークシート11「グループ用(概念化シート)」 →60頁
- ・ワークシート12「個人用(ランキング表)」 →61頁
- ・付箋紙2種類(黄色・青色) * B案の場合、7色の付箋紙があればなおよい。
- ・サインペン(人数分)
- ・色マジック6色程度
- ・模造紙一枚

※概念化シートについては58頁を参照。

(4)グループ分け

あらかじめ、5～6名程度のグループに分けます。

4 学習の手順

(1)A案

①自己紹介

グループに分かれての自己紹介

②グループワークショップ1

ア～カの6項目について、自分が考える「願い」を黄色の付箋紙に書き、項目ごとにKJ法で分類します。KJ法については、「24年度・主権者教育のための成人用参加型学習教材」を参照して下さい。

ア「遊ぶこと」・・・どのように遊びたいか

イ「働くこと」・・・どのように働きたいか

ウ「食べること」・・・どんなものを食べたいか

エ「子育てすること」・・・どんな環境で子どもを育てたいか

オ「住むこと」・・・どんな家(立地を含む)で生活したいか

カ「買うこと」・・・どんな店で買い物したいか

・例えば「遊ぶこと」は、「映画を観る」「体を動かす」など、行為を指します。「買うこと」は自分で買いに行くことを前提とし、商店街やショッピングモールなどでの買い物とします。ネットでの購入は除きます。

・分類にあたっては、「遊ぶこと」ならスポーツ系、観光系などで分け、「働くこと」なら、住居の近くなどの立地や給料体系などで分けます。

※参加者の年齢を考慮して、項目として「介護・福祉」分野と入れ替えることもできます。また、「住むこと」については、「安心安全な環境」「教育施設が近い」「交通の便がよい」など、立地条件に焦点を当てて、進めることもできます。

次いで、ア～カの6項目の中から、これ以降にグループとして話し合う、参加者が興味を抱きやすいテーマを一つ選択します。

③グループワークショップ2

選択した項目の、分類された各「願い」を実現するためには、何が必要かを青色の付箋紙に書き、該当する黄色の付箋紙の束の上に重ねて貼ります。

それを、ワークシート10「あるもの・ないもの」を使って、既に身近にあるものとないものに分けます。例えば「遊ぶこと」で、「願い」を実現するために「運動できる公園が必要」だと青色の付箋紙に書いたとします。そして、それは既にある運動

公園を使えばいいなら、「ある」に貼ります。「願い」を実現するために「カジノが必要」となれば、「ない」に貼ります。「働くこと」で、「願い」の実現のために「大企業が必要」と考えたけれども、近くになければ「ない」に貼ります。

④グループワークショップ3

「ない」に分類したものを取り出し、それをつくる(あるいは生み出す)ために、「時間がかかる」か「時間がかからない」か、「費用がかかる」か「費用がかからない」かを、ワークシート11「概念化シート」を使って分けます。

概念化シートは、横軸に時間(時間がかかる・かからない)、縦軸に費用(お金がかかる・かからない)をとります。

⑤個人ワークショップ

「願い」を実現するために必要だが今はまだないものについて、どれを優先して実現して欲しいかを各自で考え、付箋紙に書き出します。

そして、その実現が簡単か難しいかに関わらず、各自の判断で、ワークシート12「ランキング表」を使って、優先順位が高い順にランキング表でまとめます。ランキングについては、「24年度・主権者教育のための成人用参加型学習教材」を参照して下さい。

⑥グループ内でシェアリングする

理由も合わせて発表します。

⑦ファシリテーターがまとめる

今回のワークショップ自体が、候補者選定のシミュレーションであることに気付かせます。

(2)B案

②グループワークショップ1(40分)

ア～カの6項目について、自分が考える「願い」を黄色の付箋紙に書き、K J 法

でまとめます(模造紙を使用する)。

ア「遊ぶこと」・・・どのように遊びたいか

イ「働くこと」・・・どのように働きたいか

ウ「食べること」・・・どんなものを食べたいか

エ「子育てすること」・・・どんな環境で子どもを育てたいか

オ「住むこと」・・・どんな家(立地を含む)で生活したいか

カ「買うこと」・・・どんな店で買い物したいか

A案ではここで項目を1つに絞ってワークショップを進めましたが、B案では6項目すべてを考えます。そのためA案に比べ、各プロセスである程度時間を多くかけます。

5 参加者の気づき

このワークショップによって展開されたことは、自分の「願い」を可視化し、その「願い」を実現するにはという視点で、自分の住む町(地方公共団体)を検証したことです。その中で、自分が優先すべきだと判断した項目について、強く主張している(もしくはそれに近いことを主張している)候補者に投票すれば、自分の「願い」が実現に向け動き出す可能性が高くなることに気付くことができると考えられます。つまり、今回のワークショップそのものが、自分と政治をつなぐ意味での選挙における「候補者選び」のシミュレーションであり、今後、自分の「願い」を起点として、政治や選挙を身近なものとして捉えていく視点を、参加者は身に付けたと考えられます。そして、次の選挙では、候補者の主張や選挙公報から情報を集め、総合的に「誰に投票したら自分たちの『願い』が実現できるか」を考え、自分たちの地域を少しでも良くしていこうという主権者としての自覚のある行動へと結び付くと考えられます。

6 主催者が注意すべき点

教材タイトルから容易にワークの内容が読み取れるので、参加者にはタイトルを提示しない方がよいと思われます。

概念化シート(ワークシート11)について

概念化シートとは、体験から気づきを学びに転換させるために用いるふり返りのワークシート的一种である。

シートは縦横2軸によって4象限に仕切っておく。(例えば「少人数教育」をテーマにした場合は)横軸には、検討するテーマについて気づいたり思ったり考えたりしたことが「個人」についてのことなのか、それともその事象に係る集団(学級や学校、チームなど)の「全体」についてのことなのかを位置づけ、縦軸には、それが「+(良かったこと)」なのか、「-(悪かったこと)」なのかを位置づける4つの象限からなるワークシートとなっている。この4象限上に、それぞれ該当すると思われる内容の付箋紙を貼っていき、それらをKJ法的に関連付け、まとめていくことで成果を得ようとするものだ。

このシートでは、自らの気づきを内省し、それを概念化してとらえることで、様々な気づきの本質を構造化してとらえ直すことができる。それを基に「どのようなことを学んだのか」、また「どのような課題があるのか」、「今後どのような方向をとればいいのか」といった課題や解決のための方向性までも見出し、気づきから学びへ、さらに今後の課題や目標までをグループ内で共有することが出来る。このことによって、より主体的な課題解決的な学習の展開が可能となる。

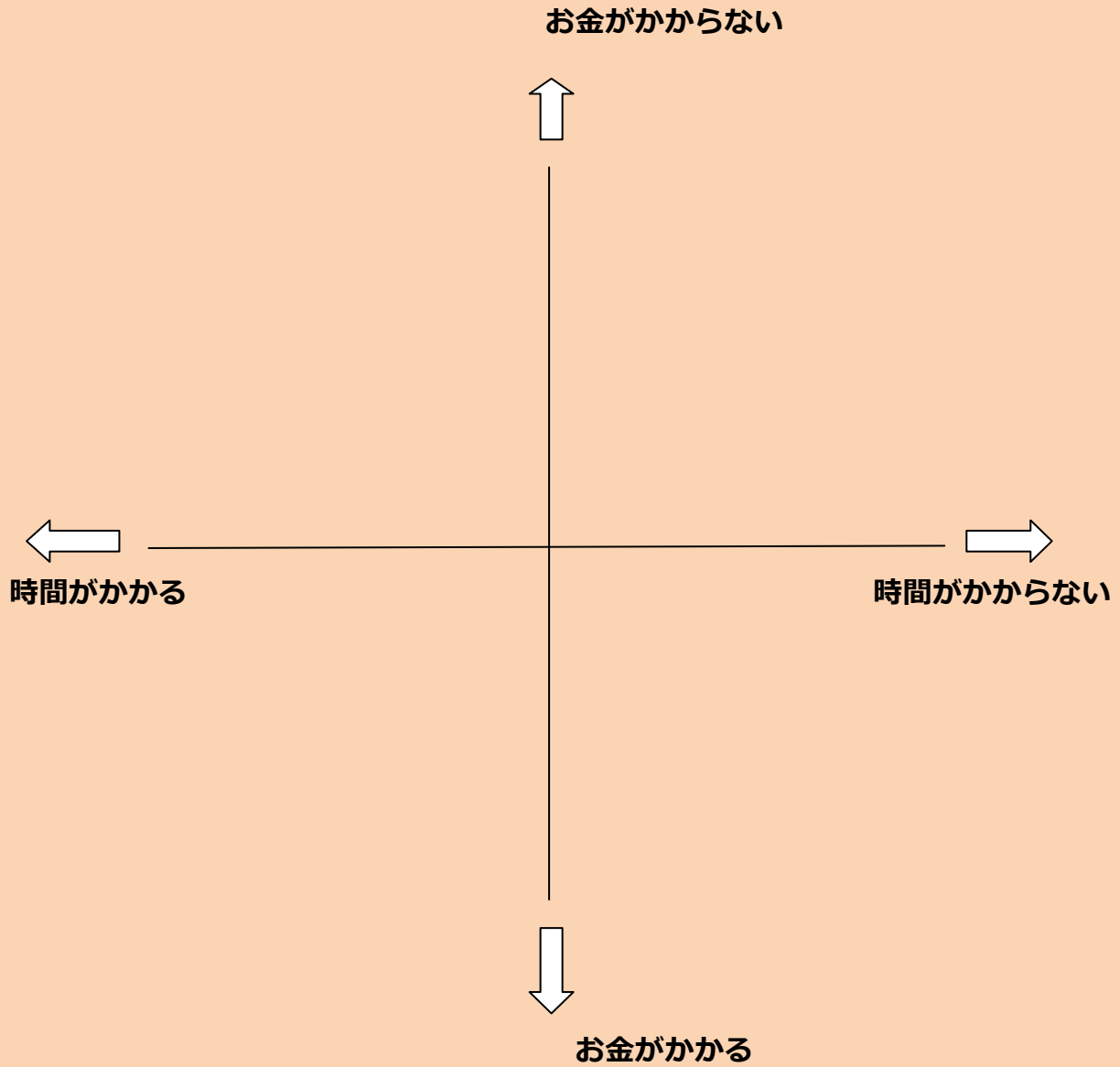
概念化シートを用いるときのポイントとしては、気づきの概念化、構造化を図る段階が重要となる。メンバー同士で付箋紙の内容を吟味することを通して、仲間の思いや願いを知ること、またそのお互いの関わりから学び合うなどの相互作用、さらには、これまでの自分やグループの変容を自覚したり、これまでの学びを再構成するといった連続性を考慮しながら進めることで、より一層深い学びが見出される。

※村川雅弘編『ワークショップ型研修の手引き～研修デザイナーでまとめる全員参加型研修～』ジャストシステム(株)、2006年。

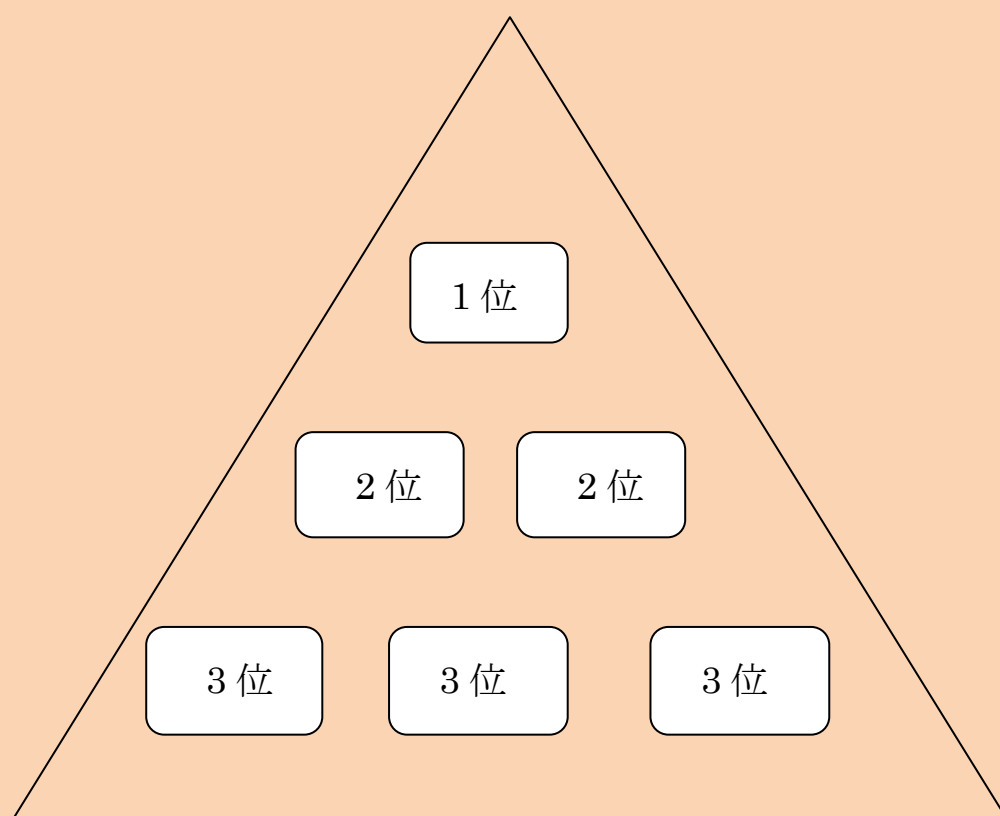
ワークシート10「グループ用(あるもの・ないもの)」

ある	ない

ワークシート11「グループ用(概念化シート)」



ワークシート12「ランキングにして貼ってみましょう」



教材5「自分たちで選挙の仕組みを変えてみよう！」

選挙の目的と機能をふまえて、選挙で決めるべきこととそうでないことを区別したり、より良い選挙の仕組みを考えたりすることを通して、選挙に対する関心と有権者としての自覚を高める。

1 教材のねらい

選挙は民意を政治に反映させるという目的を持ちつつ、多様な意見の中から一つの政策を決定するという機能を果たしています。本教材は、このような選挙の理念を実現するための方法を考えることを通して、選挙に対する関心を深めることを目指しています。

投票するにあたって、私たちは、候補者がどのような人で、どのような政策を掲げているかということについてはよく検討します。しかし、選挙の仕組みそのものについてはあまり考えることがないように思います。選挙制度改革が政治課題の一つとして掲げられて久しいですが、一票の格差の問題をはじめ、未解決の問題が山積みにも関わらず、様々な立場の利害が絡み合っなかなか議論が進んでいません。有権者にとって自らの意見が最も反映されやすい公正な選挙のあり方ということが、本来最も肝心で議論の中心になるべきことなのですが、そうなっているとは言い難い状況も見られます。これは、私たち有権者の責任でもあります。選挙を、貴重な政治参加の機会と捉え、それを通していかに自分たちの意見を政治に反映させるかを真剣に考えるならば、選挙の仕組みをどうするかという問題は、政治家だけに任せておくべきことではなく、有権者自らが考えるべき事柄であることは明白です。

本教材は、選挙とは与えられた仕組みではなく、自ら積極的に活用して政治に参加する手段であると捉え直し、そのためのより良い仕組みを自分たち自身で考える力を身に付けようとするものです。

2 学習の進め方

(1)全体の流れと所要時間

- ・グループ分けとアイスブレイク(10分)
- ・ものごとの決定の仕方について(15分)
- ・ものごとの決定の仕方の規準の違い(15分)
- ・選挙で決めるべきことと、そうでないこと(15分)
- ・選挙で決めるべき事柄の規準の違い(15分)
- ・皆の意見をよりよく反映する選挙の仕組みを考えてみよう(25分)
- ・考案した選挙の仕組みを発表しよう(15分)
- ・ふり返り(10分)

計 2 時間程度

(2)準備するもの

- ・ワークシート13「どのように決定しますか」 →68頁
(ものごとの決定の仕方についてのワークシート)
- ・ワークシート14「これ、選挙で決めますか」 →69頁
(選挙で決めるべきことについてのワークシート)
- ・ワークシート15「ふり返りシート」 →70頁
- ・模造紙(各グループに一枚)
- ・サインペン

(3)役割

- ・ファシリテーター

3 学習の手順

(1)グループ分けとアイスブレイク

参加者を3～4名のグループに分けて、いくつかのグループを作らせましょう。グループに分かれたら、司会を決めてもらいましょう。司会になった方には、グループの構成員同士の理解を深めて話し合いやすい雰囲気を作るために、次の要

領で自己紹介をするようにお願いしてアイスブレイクを行いましょう。

①各自の名前

②自分が所属している組織の中の自分の役割と苦労していること

※必ずしも仕事上の事柄でなくても構いません。所属している組織のうち何でも差し支えのないものを紹介してもらいましょう。例えば家族の中のゴミだし係、自治会の広報委員など。

(2)ものごとの決定の仕方について

ワークシート13を配布し、ア～オについて、その決定の仕方として最も妥当な方法を挙げたうえで、それが妥当であると判断した理由を書いてもらいましょう。

ア オフィスの掃除当番

イ 忘年会の幹事

ウ 新しいプロジェクトのリーダー

エ 地域の自治会の長

オ 労働組合の長

ものごとを決定する際には、担うべき負担の公平性、その人物の能力や人柄、構成員の意思などが考慮されなければなりません。例えば、上の例のうちアやイについては公平性、ウとエとオについては能力や人柄、エとオについては構成員の意思が重視される場合が多いと思います。しかし、それも常にそうであるとは限りません。状況によっては、同じ事柄でも考慮すべき観点が違ってくることがあります。

(3)ものごとの決定の仕方の規準の違い

ワークシート13の回答についてグループの中で互いの考えを交換し、意見が一致したところと一致しなかったところを確認したうえで、それぞれなぜ一致したか、なぜ一致しなかったかについて話し合います。

(4)選挙で決めるべきことと、そうでないこと

ワークシート14を配布し、ア～オについて、

- ①選挙で決めるべきかどうか
 - ②常に選挙で決める必要はないとしたらそれはどのような場合か
 - ③そのように判断した理由
- を考えて記入してもらいましょう。

ア 地域の自治会の長

イ 労働組合の長

ウ 学校のPTAの長

エ 地方議会の議員

オ 自治体の首長

選挙で決めるべき事柄には、その役割の適性を考えるうえで選ばれた人の能力や資質が特に重視され、かつその判断をするうえで構成員一人ひとりの意思が反映されていなければならないものが該当します。ただし、役割によっては、その判断が状況によって異なる場合もあります。

(5)選挙で決めるべき事柄の規準の違い

ワークシート14の回答についてグループの中で互いの考えを交換し、意見が一致したところと一致しなかったところを確認したうえで、それぞれなぜ一致したか、なぜ一致しなかったかについて話し合いましょう。

(6)皆の意見をよりよく反映する選挙の仕組みを考えてみよう

(4)で検討した事柄のうち一つを取り上げて、実際に選挙を行うことを想定して選挙の仕組みをグループで考えてもらいましょう。例えば、次のような状況が考えられます。

《事例》

ある地域の自治会の長を決めることになりました。会長と副会長を1名ずつ決定しなければなりません。会長、副会長の役割は自治会の運営とそのための連絡調整、そして会議の司会が中心ですが、自治会の予算案を検討し自治会に提案するという大きな権限も持っています。その地域は、AからDまでの4つの地区で構成されており、A地区の住民数が最も多く地域全体の半数に少し足りないくらいです。残りの3地区の住民数はほぼ同じです。その地域では数年前から、祭りの費用の自治会負担分をどの程度にするかということが問題になっていました。A地区の住民には祭りを縮小し負担を減らすことを求める人が多いのですが、他の地区では祭りをさらに賑やかなものにするために負担を増やすことを求める意見の人が多くなっています。

さて、この地域の自治会の会長と副会長をどのように決定すればよいでしょうか。その際に単純に一人一票を投じるというだけではなく、次のような観点でより良い仕組みはどのようなものかを検討してもらいましょう。

ア 投票用紙には1名の名前を書くだけにするか。その際、獲得票数が最も多い方を会長、次の方を副会長とするか。

イ 会長と副会長を連記するか、それぞれ別に選挙を行うか。

ウ 会長と副会長は別の地区から選出するようにするか、選出する地区は考慮しないか。

エ 投票用紙に名前を書くのではなく、予め全候補者の名前を投票用紙に書いておき、順位付けをする投票にするか。この場合には、順位による獲得点数を決めておいて、得点によって当選を決めるという方法が考えられる。

オ 獲得した票数が最も多い方を単純に当選者とするか、それとも過半数の票を獲得を条件とし、過半数の獲得者が出るまで選挙を繰り返すか。

(7) 考案した選挙の仕組みを発表しよう

グループごとに考案した選挙の仕組みを報告し、報告が一通り終わったら質疑を行いましょう。どの仕組みが最も適切かについて合意形成を図ってもよいと思います。

(8) ふり返り

全ての活動が終わったら、ワークシート15を配布して、今日の活動をふり返ってもらいましょう。時間があれば、感想を語ってもらっても構いません。

ワークシート13「どのように決定しますか」(ものごとの決定の仕方についてのワークシート)

決定をすべきものごと	決定の仕方(じゃんけん、くじ、選挙など)	妥当であると判断した理由
ア オフィスの掃除当番		
イ 忘年会の幹事		
ウ 新しいプロジェクトのリーダー		
エ 地域の自治会の長		
オ 労働組合の長		

名前()

ワークシート14「これ、選挙で決めますか」(選挙で決めるべきことについてのワークシート)

決定すべき事柄	選挙で決めるべきかどうか (決めるべき：○、決めるべきではない：×)	選挙で決める必要のない場合の状況	判断の理由
ア 地域の自治会の長			
イ 労働組合の長			
ウ 学校のPTAの長			
エ 地方議会の議員			
オ 自治体の首長			

ワークシート15「ふり返しシート」

◎ 本日の活動をふり返ってみましょう。

1 本日の活動を通して、自分たちの願いを実現するためには、何が必要であると思いましたか。

2 本日の活動の感想を自由に書いて下さい。

名前()

教材 6「自分たちの理想を実現する政党づくり」

架空の政党づくりの活動を通じて、与えられた選択肢の中から選ぶのではなく、理想にあった選択肢を自ら作るという積極的な有権者の育成を目指す。各党から候補者を立て、模擬選挙も行う。

1 教材のねらい

本教材は、政治は自分以外の誰か偉い人がやってくれるものという意識から、自分たちが政治の主役であるという意識への転換を目指しています。期待できる候補者がいないとか、誰がなっても政治は変わらないといった有権者の不満は、選挙のたびによく耳にします。その気持ちは理解できないわけではないですが、このような意見の背後には、政治を実際に行うのは誰か他の人で、自分の理想にあった誰かが出てくるのを待つという受け身の姿勢が感じられます。本教材では、与えられた選択肢の中から自分の理想にあった人を選ぶのではなく、理想にあった選択肢を自ら作るという積極的な有権者の育成を目指しています。そのために行う活動が政党づくりです。いくつかの問題について同じ考え方を持つ者同士が集まって、自分たちの理想を政治に反映させるという政党づくりの活動を通して、自分たちが政治に対してどのような考えを持っているかを見直していきます。また、政党づくりの活動を通して、他者と意見を調整し合意を形成することの大切さを再確認することもねらいの一つです。そのために、参加者をいくつかの政治課題について比較的近い考え方を持つ者同士のグループに分け、それらのグループを民間団体と政党に分け、それぞれが活動方針や綱領を作る活動を行います。最終的には、架空の選挙を想定し模擬投票を行い、自分たちの理想を政治に反映させることを目指していきます。

2 学習の進め方

(1)全体の流れと所要時間

- ・政治課題に対するアンケート調査(5分)
- ・アンケート調査に基づくグループ分け(5分)
- ・アイスブレイク(5分)
- ・政党名を考えよう、団体名及び団体の性格を決定しよう(10分)
- ・政党の綱領を作ろう、団体の行動方針を決めよう(20分)
- ・選挙の候補者を立てよう、候補者に対する政治的要求を考えよう(30分)
- ・公開シンポジウムの開催(60分)
- ・模擬投票(10分)
- ・開票(5分)
- ・当選者の決意表明と落選者の敗因分析(10分)
- ・ふり返し(5分)

計3時間程度

(2)準備するもの

①資料

アンケート調査で尋ねる質問項目に関する新聞記事や雑誌の記事。

例えば、アンケートで山林や海岸の開発問題と、大型商業施設の誘致について取り上げた場合、特定の地域の開発について取り上げた新聞の特集記事、それについての社説、大型商業施設の誘致の経済的・社会的影響について論じた記事、大型商業施設進出に対する様々な立場の人の意見に関する記事が考えられる。

②ワークシート、文具等

- ・ワークシート16「あなたは賛成？反対？」政治課題に対するアンケート調査
→78頁
- ・ワークシート17「選挙公約チェックシート」公開シンポジウムの際のメモ
→79頁
- ・ワークシート18「ふり返しシート」 →80頁
- ・模造紙(各グループに一枚)、サインペン

(3)役割

- ・ファシリテーター
- ・政党づくり担当グループ
- ・民間団体担当グループ
- ・開票作業支援担当者

3 学習の手順

(1)政治課題に対するアンケート調査

ワークシート16を配布し、政治課題に対する考え方を尋ねます。課題はプログラムを実施する地域の状況に応じて変更しても構いません。例えば、以下のような課題が考えられます。

- ア 地域活性化のための公共事業費の増額
- イ 原子力発電所の稼働停止
- ウ 工場誘致のための山林や海岸の開発
- エ 大型商業施設(ショッピングモール)の誘致
- オ 子どもの医療費補助の枠の拡大
- カ 高齢者のための福祉施設の建設

これらの課題の中から二つ程度を選択して、アンケートを作成します。地域の実態を反映した課題にすれば切実性が増すので話し合いが盛り上がる可能性があります。一方で、参加者が本音を言い出しにくくなるという問題も起きるので注意が必要です。

(2)アンケート調査に基づくグループ分け

ファシリテーターは、アンケートの回答を参考にして、政治課題に対して同じような考えを持った人同士が集まったグループを作っていきます。このような手続きをふむのは、政党は主義や主張がある程度一致する人同士の集まりであるからです。ファシリテーターは、グループを分ける際の基準を参加者に説明して、

それぞれのグループがどのような考えを持った人の集まりであるかをはっきりさせましょう。

1つのグループの人数は4名程度がよいと思います。参加者の数やグループの数にもよりますが、出来上がったグループを、政党をつくり選挙で候補者を立てるグループと、政党に対して様々な要求をする民間団体のグループに分けます。政党のグループは、選挙において候補者が3名以上立つ方がよいので3つ以上が望ましいでしょう。民間団体としては、以下のようなものが考えられます。

- ・ 経営者団体
- ・ 労働組合
- ・ 環境保護団体
- ・ 消費者団体
- ・ 平和団体

これらの民間団体は、アンケートで尋ねる政治課題に合わせて設定すればよいでしょう。例えば、地域活性化の公共事業費の増額や大型商業施設(ショッピングモール)の誘致についてアンケートで尋ねるならば、経営者団体や消費者団体を民間団体として設定すればよいでしょう。あるいは、工場誘致のための山林や海岸の開発について尋ねたとしたら、環境保護団体なども加えるとよいと思います。

(3)アイスブレイク

グループに分かれたら、自己紹介をしてお互いに理解を深め、スムーズに話し合いができる雰囲気を作ることが大切です。アイスブレイクとして、例えば以下のような方法が考えられます。

- ・ 自己紹介
- ・ 自分の出身地のよいところを皆に紹介しよう。

以下の活動は、A 政党グループとB 民間団体グループで異なります。

↓ A 政党グループの活動

(4) 政党名を考えよう

ファシリテーターは、それぞれのグループで、政党の名前を考えるように指示します。グループは、アンケートの結果に基づいて同じような考えを持っている人で構成されていますので、自分たちの考えを反映し、かつユニークな名前を考えるように促しましょう。

(5) 政党の綱領を作ろう

政党名が決まったら、次にそれぞれの政党の行動方針とでもいべき綱領を作るように指示しましょう。政党の目的は最終的には政権をとり、自分たちの考えを実現していくことです。その点を意識して綱領を作ることが大切です。綱領の形式は自由ですが、短い文章で箇条書きにした方が分かり易く、人にも伝わり易いでしょう。

(6) 選挙の候補者を立てよう

国会議員、地方自治体の首長または議会の議員の選挙に政党から候補者を出すことを想定して、各グループに候補者を決めるように指示しましょう。候補者は誰でも構いませんが、後で演説をしなければなりません。また、候補者の名前も考えるように指示して下さい。後で模擬投票をすることを考えて、難しくない名前にした方がよいでしょう。候補者が決まったら公約と演説の内容を考えるように指示して下さい。

その際に、資料として、最初にアンケートで尋ねた政治課題に関する新聞や雑誌の記事を配布します。記事の内容は偏ることなく、それぞれの政治課題について賛成、反対のそれぞれの立場から書かれている記事を用意できることが望ましいと思います。

B 民間団体グループの活動

(4) 団体名及び団体の性格を決定しよう

経営者団体や労働組合など団体名が決まっているグループに対しては、その団体がどのような構成員からなり、どういう性格のものを決めるように指示して下さい。経営者団体であればどのような産業の企業経営者によって構成されているかといったことを決めればよいでしょう。また、NPOやNGOなどを割り当てられたグループに対しては、団体名と団体の性格を決めるように指示しましょう。

(5) 団体の行動方針を決めよう

団体名や団体の性格が決まったら、その団体がどのような方針に基づいて何に取り組んでいるかを決めるように指示しましょう。特に、アンケートで調査をした政治課題や、地域の特性を考えて行動方針を決定すればよいでしょう。

(6) 候補者に対する政治的要求を考えよう

民間団体グループ自体は、候補者を立てませんが、選挙の勝利の行方を左右する貴重な票を持っています。自分たちの考えた行動方針に基づいて、候補者に要求する事柄を考えましょう。そのうえで、後のシンポジウムでそれらの要求を公表し候補者に圧力をかけます。

以下の活動は、再び全体で行います。

(7) 公開シンポジウムの開催

ファシリテーターは、候補者がそれぞれの選挙公約を述べ、民間団体が政治的要求を提示する公開シンポジウムの司会を務めます。公開シンポジウムの内容は以下の通りです。

- ① 候補者の立会演説
- ② 民間団体からの要求
- ③ 質疑応答

候補者と民間団体がそれぞれの主張を一通り述べた後、質疑応答を行います。政党グループは他の政党の候補者に対して政策の内容を問いただしてもよいですし、民間団体グループは、自分たちの要求の中で候補者の政策で触れられていないものがあれば、それに対する考えを問うてもよいでしょう。ここでは、主張している政策は効果的なものか、実現可能か、皆の幸せのためになるものかといった点を吟味していくことが大切です。ワークシート17を使います。

(8) 模擬投票

公開シンポジウムが終わったら、投票を行います。各自一票を投じ、もっとも獲得票数が多い候補者を当選とします。投票は、投票箱を用意するなどして、可能な限り形式を整えて行うようにしましょう。参加者全員が、真剣に投票することが何よりも大切です。秘密投票の原則に基づいて、誰が誰に投票したか分からないようにすることも重要です。したがって、政党の構成員であっても必ずしも自分のグループの候補者に投票する義務はありませんし、民間団体のグループの人は誰に投票するのも自由です。

(9) 開票

投票が終了したら、即、開票を行います。ファシリテーターを中心に何名かで協力をして速やかに開票を行います。同点の場合は、その候補者に絞って再度投票を行ってもよいでしょう。

(10) 当選者の決意表明と落選者の敗因分析

当選者が確定したら、当選した候補者に抱負を述べてもらいましょう。また、落選した候補者には選挙をふり返って敗因を説明してもらいましょう。民間団体の代表の方に、当選者に期待することを述べてもらってもよいと思います。

(11) ふり返り

全ての活動が終わったら、ワークシート18を使って、今日の活動をふり返ってもらいましょう。時間があれば、感想を語ってもらっても構いません。

ワークシート16「あなたは賛成？反対？」

政治課題に対するアンケート調査(山林の開発問題と大型商業施設の誘致を例に)

政治的課題	賛否 (賛成なら○、反対なら×)
○A市は、郊外の山林を開発して大型の廃棄物処理場を建設しようとしています。それについてあなたの考えは？	
○あなたは、A市に大型商業施設が必要だと思いますか。	

名前()

ワークシート17

「選挙公約チェックシート」(公開シンポジウムの際のメモ)

◎公開シンポジウムで各候補者の選挙公約を聞きながら、それぞれの候補者の公約を評価しましょう。その際に下記の点に留意しましょう。

ア 有効性(その公約は、効果があるか)

イ 可能性(その公約は、実現し得るか)

ウ 公共性(その公約は、皆のためになるものか)

・候補者A

ア

イ

ウ

・候補者B

ア

イ

ウ

・候補者C

ア

イ

ウ

ワークシート18「ふり返しシート」

◎ 本日の活動をふり返ってみましょう。

1 本日の活動を通して、自分たちの願いを実現するためには、何が必要であると思いましたが。

2 本日の活動の感想を自由に書いて下さい。

名前()

教材執筆者の紹介

- ・ 越地真一郎さん(教材 1)

熊本日日新聞 N I E 専門委員

熊本大学客員教授(政策創造研究教育センター)

熊本学園大学招聘教授

日本 N I E 学会理事

- ・ 上原直人さん(教材 2)

名古屋工業大学大学院工学研究科・工学教育総合センター准教授

日本公民館学会理事

- ・ 吉村功太郎さん(教材 3)

宮崎大学大学院教育学研究科准教授

- ・ 西村公孝さん(教材 4)

鳴門教育大学人文・社会系教育部教授

日本公民教育学会副会長等

徳島県明るい選挙推進協議会連合会委員

- ・ 桑原敏典さん(教材 5、6)

岡山大学大学院教育学研究科教授

全国社会科教育学会理事、日本公民教育学会理事等

